

コミュニティ・センターにおける 音楽アウトリーチの実施による地域課題の解決可能性

—連雀コミュニティ・センターでのコンサートを事例として—

加藤 亜希子

音楽アウトリーチは、本来、音楽に触れる機会の少ない住民に対しその機会を提供する活動を指すが、日本ではその趣旨を越えて、社会的課題や地域課題への取り組みといった独自の意義を付加された上で、多くの実践がなされている。だが、実施に際しては様々な制約や問題があり、まだ十分に普及しているとは言い難い。三鷹市でも、住民のニーズが一定数あるにも関わらず音楽鑑賞の機会の提供が充分でないというアンケート結果が出ている。そこで本研究ではまず、市内での音楽アウトリーチ実施における障壁の有無と（ある場合には）その具体的な問題について調査した。そして、音楽アウトリーチの機会を増やしたいと考えている連雀コミュニティ・センターにて筆者によるコンサートを実施し、来場者へのアンケート、関係者へのインタビューを通して、地域住民のニーズの調査、住民のQOL向上や地域課題の解決に寄与しうるか等の検証を行った。最後に、多世代交流事業や利用者層などに関し、コミュニティ・センターの抱える問題を解決するアプローチを音楽アウトリーチの観点から検討するとともに、施設の今後のあり方に関して広くコミュニティ・センターおよび市への提案を行った。

キーワード：音楽アウトリーチ 多世代交流 コミュニティ創生 コミュニティ・センター

1 はじめに

1.1 研究の背景

1.1.1 日本での音楽アウトリーチの現状

アウトリーチ (outreach) は、英語で「手を伸ばす」という意味であり、元は社会福祉の分野で、助けが必要であるにも関わらず自ら申し出ない人たちに対して、公共機関等が積極的に働きかけ、支援を届けることを指した¹⁾。吉本光宏 (2001) によると、音楽アウトリーチは「日頃、芸術や文化に触れる機会の少ない市民や地域に対して働きかけ、芸術を提供していく」という理念の活動と定義されており、市民に音楽ホールまで足を運んでもらうのではなく、音楽家が自ら施設や学校等に出向し、支援が必要な人、遠くまでの外出が難しい人に対して間近で演奏を届ける活動である。

音楽アウトリーチは、「アメリカやイギリスの教育プログラムや文化政策の中で発展してきた方法論」(小井塚 2016: 1) であり、砂田和道 (2007) によれば、アメリカでは支援者の獲得、音楽家の養成、顧客開発といった明確な目的のもと 1900 年頃から活動が始まり、1970 年代からプロのオーケストラによる音楽アウトリーチが盛んに行われ、1990 年代後半になってそれらの活動が日本にも紹介されるようになった。導入から 20 年以上が経過した現在では、日本でも「一定の定着が認められ研究成果も蓄積されている」(永島 2021: 95)。「日本におけるアウトリーチの普及と発展には、一般財団法人地域創造の存在が大きく関わっている」(小井塚 2016: 33) が、本来「芸術文化振興とは関係のない政府機関である総務省によって地域創造が設立された」(丹羽 2021: 68) こ

とにより、音楽アウトリーチに「芸術を通じた地域課題への取り組み」（永島 2023: 16）という独自の意義が付与されることとなった。小井塚（2016）によれば、その活動が「公共ホール音楽活性化事業」に代表されるような公立文化施設の活性化、すなわち本公演の集客に向けた宣伝活動という側面を有していたため、学校訪問の文脈では、音楽アウトリーチにより教育的な内容を期待したり、平等な芸術体験を求めたりする受け入れ側との意識の差異が問題になるケースが生まれた。さらに丹羽（2021）によれば、本来は音楽ホールでない場所で音楽を届ける趣旨のアウトリーチが、大量に建設された文化施設（音楽ホール）の存在意義の証明のため、音楽ホールに絡めた形で盛んに実施されるという矛盾が生じる事態を招くことになり、活動の理念に関しては、「鑑賞だけでなく、双方向の交流があり、演奏者と参加者が対等な立場で楽しむ活動」という形態だけが一人歩きした結果、理念の部分が欠けている、もしくは“普段の音楽活動の成果発表の場”という担い手中心の理念が掲げられたまま多く実施されている現状がある。日本の音楽アウトリーチは現在、理念、実施内容、担い手、目的等が多岐にわたり、様々な意義や意味付けが行われてきた結果、良く言えば多様化しており、悪く言えば混迷を極めていとも言える。

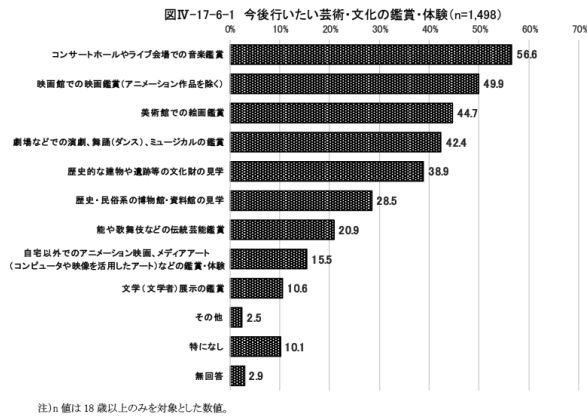
また、音楽アウトリーチをめぐるのは、①一般的な有効性の評価指標が存在しない、②担い手不足という2つの問題により、ニーズに対して十分に実施されていない状況があると考えられる。①に関して、特に医療・社会福祉の現場では、「人の生理的、心理的、社会的、認知的な状態に作用する」という音楽の持つ力を用いて、対象者を多面的に支援する音楽療法が用いられており、その活動が対象者の「より良い生活（QOLの向上）」に繋がることが示されているが²⁾、湯原悦子・石川貴憲（2022）によると、似て非なる性質の音楽アウトリーチに関しては、事例・実践レベルでの有効性が示される段階に留まる。また、上村有平・小野隆洋（2021）によると、教育現場での音楽アウトリーチでも、音楽に触れることで内面の様々な気づきや変容がもたらされるという効果が認められつつも、その評価は経験則にもとづく曖昧なものになっている。②に関しては、音楽大学等での「アウトリーチ教育の機会は増えたものの、アーティストのキャリア教育が不十分」（梶田・中村 2021: 135）であるという課題が指摘されている。

1.1.2 三鷹市における音楽とコミュニティ活動に関する課題解決の重要性

音楽アウトリーチに関して、三鷹市での状況に注目してみると、2023年3月に公開された『第5次三鷹市基本計画策定に向けた市民満足度調査 報告書』では、無作為抽出の市民約1500人の半数以上が「今後行いたい芸術・文化の鑑賞・体験」について「コンサートホールやライブ会場での音楽鑑賞」を挙げており、住民の音楽鑑賞へのニーズ自体は十分に高いことがうかがえる（図1参照）³⁾。また同調査では、約26%の人が「この1年間で芸術・文化の鑑賞・体験を1回も行っていない」と回答しているが、その理由について「きっかけがない」が約30%、「必要な情報がない」が約15%、「費用をかけたくない」が約14%、「場所や施設がない」が約5%などとなっている（図2参照）⁴⁾。こちらに関して、例えば市民の住区で徒歩圏内にあり、広報紙などで情報が定期的に入ってくる各コミュニティ・センターで無料のコンサートがあった場合には、上記に示した4つの問題は解決される可能性が高い。

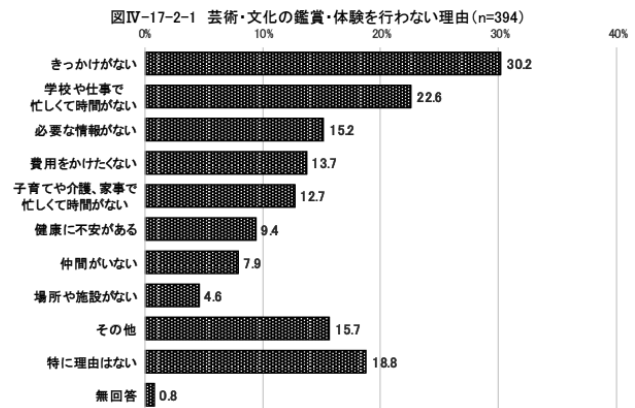
また、市内のコミュニティ・センター（コミュニティ行政）に関して、2023年12月に公開された『三鷹市コミュニティ創生基本方針（仮称）素案』によると、約20年前から主に①コミュニティに対する無関心層の増加、②コミュニティの高齢化・固定化、担い手不足、③コミュニティ間・世代間の分断、連携不足、④コミュニティ施設の整備・利便性の向上の4つの課題が、認識されつつも解決されていないという現状が挙げられている⁵⁾。

この中で、特に③の“世代間の分断、連携不足”に注目し、それを解消すべく企画されていると考えられる多世代交流事業の状況を見てみる。三鷹市では、2017年に児童館からリニューアルする形で多世代交流センターが設置され⁶⁾、各コミュニティ・センターでも多世代交流事業が実施されてきてはいるが⁷⁾、例えば筆者の住



出典：三鷹市 (2023)

図1 今後行いたい芸術・文化の鑑賞・体験



出典：三鷹市 (2023)

図2 芸術・文化の鑑賞・体験を行わない理由

区にある連雀コミュニティ・センター（以下、連雀 CC と略記する）での事業は、子ども・親子向け事業（コンサート、ベビーマッサージ、新米パパママの育児相談・交流会、親子自然観察会、親子工作・DIY 講座）、ミドル世代向け事業（ママさんキックボクシング）、シニア世代向け事業（健康体操、ストレッチ講座、zoom フォローアップ講座）等、そのほとんどが対象世代を限定する内容であり⁸⁾、子ども～シニアまでという本当の意味での多世代の交流を目的としたもの、その目的が達成されているものは極めて少ない。この点に関しては、2023年7月に公開された、三鷹市市民参加でまちづくり協議会（マチコエ）による『政策提案（未来のまちづくりアイデア集）～まちの声を聴き、まちの声をカタチにする～』の中でも、多世代が参加しやすい次世代型のコミュニティの創出が今後の課題として挙げられ、そのための役割を果たす場所として、コミュニティ・センターのさらなる機能拡充が要望されている⁹⁾。

1.2 研究目的と研究方法

1.1.2 項のように三鷹市では、市民による音楽鑑賞の機会と、多世代が参加しやすいコミュニティの創生やコミュニティ活動の担い手の充実などが望まれている現状を鑑み、筆者は、コミュニティ・センターにおける音楽アウトリーチを通して、住民のニーズを満たすと同時に、そのような機会が市の地域課題の解決に寄与できるかどうか検証したいと考えた。具体的には、筆者の住区にあり、音楽アウトリーチの実施機会を増やしたいと考えている連雀 CC に協力を依頼し、実際に音楽アウトリーチ（コンサート）を実施して、本当に住民のニーズがあるか、普段あまり音楽鑑賞機会や施設の利用機会が多くない層に足を運んでもらうことができるか、そのような場が住民の QOL 向上に寄与しうるか等を検証し、長期的には新たなコミュニティ創生や多世代交流の活性化といった、コミュニティ活動に関する地域課題の解決の一端を担う可能性を有するかについて、考察を行うことにした。

そこで、本研究は以下の目的、方法に沿って行うものとする。

《目的》

- (1) 市内で一定数のニーズがあることが確認されているにも関わらず、十分に音楽アウトリーチが実施されていないと考えられる状況を鑑み、市内での音楽アウトリーチ実施における障壁の有無と（ある場合には）その具体的な問題を明らかにすること。
- (2) 公民館（今回の場合は連雀 CC）にて行われる音楽アウトリーチで、以下の4項目を調査、検証すること。

- ❶ 住民のニーズがあるか
- ❷ 音楽鑑賞機会や施設の利用機会が多くない層に足を運んでもらうことができるか
- ❸ そのような場が住民の QOL 向上に寄与しうるか
- ❹ 長期的にはコミュニティ活動に関する地域課題の解決の一端を担う可能性を有するか

《方法》

- (1) 市内の全コミュニティ・センターにコンサート等の音楽イベント（音楽アウトリーチという用語は広く認知されていないため、ヒアリングに際してはこのような名称とした）の実施状況を確認し、文化事業に関わる委員、職員にインタビューを行うことで、コミュニティ・センターの抱える課題、音楽アウトリーチ実施における障壁の有無・内容の確認を行う。
- (2) 連雀 CC にて筆者による 2 回のコンサートを行い、来場者に対してのアンケートを実施、その回答結果の分析と事務局担当者の所感から、目的(2)の 4 項目の検証を行う。

音楽アウトリーチの実施に際しては、❶質の高い（専門性を備えた）演奏を間近で聴ける機会を提供、❷入場（聴講）無料、❸足を運びやすいフラットな空間、❹子ども～シニアまで誰でも入場可能、という 4 条件を満たすことに留意した。この 4 条件に関しては、以下で少し補足する。

本来の音楽アウトリーチは、時間的・物理的・経済的理由などで音楽ホールに直接足を運ぶのが難しい、足を運ぶ機会がない人々に、間近に本物の芸術に触れてもらうという理念のもとに行われる。それゆえ、音楽ホールに匹敵するような大規模の会場ではなく、対象者にとって利便性の良い小規模の会場にて実施されることが多い。また実施目的も対象者によって当然異なるため、ある程度少数で属性の似通った対象者に向けて、芸術普及や教育的意義、健康促進などその目的達成に特化したプログラムが組まれることがほとんどである。例えば、「進路を考える時期の小学校 6 年生の子どもたちに向けて、音楽室にて」、「日々ストレスや悩みを抱える保護者に向けて、地域の子育て広場にて」、「行動範囲が限られる社会福祉施設の入居者に向けて、施設の一角にて」等である。すなわち、音楽アウトリーチの多くは、❶質の高い（専門性を備えた）演奏を間近で聴ける機会を提供、❷入場（聴講）無料、❸足を運びやすいフラットな空間、❹対象者が限定的、という 4 条件を満たす。しかし、公民館での実施を想定した場合、施設の特性上、条件❶～❸に加えて、条件❹ではなく条件❹' 子ども～シニアまで誰でも入場可能、という機会の提供が望まれる。特に昨今、三鷹市を含め多くの地方自治体で力を入れ始めている多世代交流事業のように、世代を超えたコミュニティを創生するためには、幅広い世代が制約なしに参加可能という条件❹' は非常に重要である。

1.3 研究の意義

音楽アウトリーチを、音楽ホールの活性化という狭義の地域課題への取り組みでなく、より広義の、住民の QOL 向上やコミュニティ創生といった地域課題への取り組みの一環という位置付けで考えると、専門性を備えた演奏を、公民館のような近隣住民が誰でも足を運ぶことのできる開かれた空間で、無料にて聴くことのできる音楽アウトリーチの機会は大変意義深いように思えるが、公民館での実施事例はことのほか少なく、特に定期的な開催をしている自治体、施設はほとんど存在しない。高橋千絵・末永雅子（2012）によると、それには、施設側の問題として、活動を行う音楽家や実施場所の確保が困難である、謝礼等の予算が不足している、会場の環境（音響や設備）が不十分である、住民のニーズが顕在化していない等の理由が、実施側の問題として、幅広い対象者に対して満足度の高いプログラムを提供することが難しい等の理由が考えられる。

以上により、公民館での音楽アウトリーチの実施、研究を行うことは、先行研究が少ない領域の研究を補完す

るという点で意義があり、三鷹市における今後の多世代交流事業の方向や内容の検討、コミュニティ・センターの活用可能性を考える上でも、有用性は大きいと考えられる。

2 三鷹市のコミュニティ・センターをめぐる現状と課題

2.1 三鷹市におけるコミュニティ行政と連雀コミュニティ・センターの位置付け

三鷹市（2023b）によると、市のコミュニティ行政は、当時の鈴木平三郎市長がドイツのコミュニティ・センターを視察したことを契機とし、1971年に「コミュニティ・センター建設構想」を発表したことから始まる。その頃、東京では地方からの人口移動が著しく、三鷹市においても、市の人口が膨れ上がる中で地域や市政を知らない・関心がない市民が急増しており、昔からあった町会・自治会等の地縁的な組織と新しい住民との間で摩擦が起こる中で、いかに地域のコミュニティを再構築するかが大きな課題となっていた。このような状況下、国でも「コミュニティ再生」が提唱され、三鷹市は全国の自治体に先駆け、住民自らが住みよいまちづくりを進めるコミュニティ行政に着手した。そして、1974年には市のコミュニティの理念とコミュニティ・センターの住民管理を明文化した「三鷹市コミュニティ・センター条例」が制定され、市内にゾーニングされたコミュニティ住区（地域）に基づいて、順次7つのコミュニティ・センターが設立・整備されていく¹⁰⁾。それぞれの住区では、市民の自治組織である住民協議会が指定管理者となり、活動の拠点施設であるコミュニティ・センターを運営するとともに、現在に至るまで市民が主体となって福祉・環境保全・防災防犯などの多様な課題に対応できる地域づくりを進めている。

今回焦点を当てる連雀CCは、7つあるコミュニティ・センターの中では6番目となる1984年に開館した施設で、多くの教育施設や公共施設を有する市の中心部に位置し、市内で最も人口の多い約4万5000人が居住する連雀住区にある（図3参照¹¹⁾）。コロナ禍以前は年間約16万人が利用しており、連雀CCを指定管理する連雀地区住民協議会は6つの部会と8つの委員会から成り、コミュニティ・センターを活動の拠点としている自主グループのメンバーや、地域の市民ボランティア約130人が委員として活躍している。先に設立されたコミュニティ・センターの構造が閉鎖的であった経緯があり、開放的な造りにしたいとの当時の住民の意思が反映され¹²⁾、建物のほぼ全面がガラス張り、1階ロビーは2階まで吹き抜けになっていて、ロビーの響きが良く、2階からロビーを一望することも、屋外から中の様子を見ることも可能であるため、他のコミュニティ・センターと比較しても催事での利用がしやすい構造となっている。

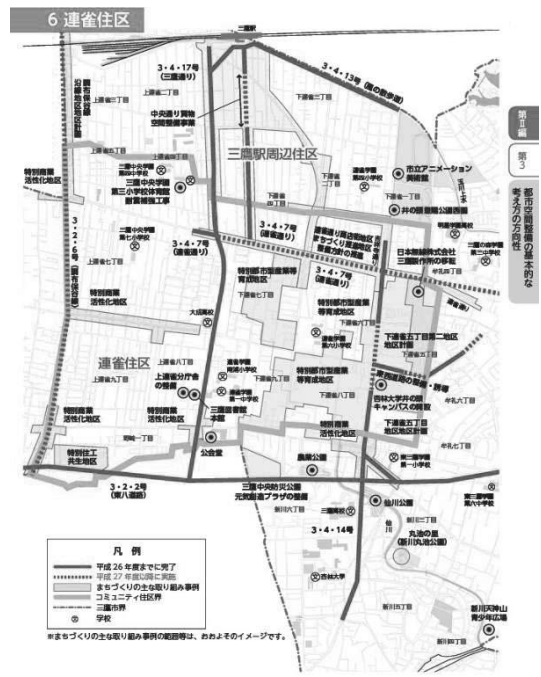


図3 連雀住区略図

2.2 インタビュー調査からみる連雀コミュニティ・センターの課題と今後

2.2.1 インタビュー調査の概要

連雀CCの現在の課題や音楽イベント（ロビーコンサート等）に対する要望、今後の施設の方向性などを確認することを目的として、筆者による住民協議会関係者への半構造化インタビューを、以下2名に対して実施した。

- ① 古張竜人氏（連雀地区住民協議会事務局職員、文化部会担当）、於 2023 年 9 月 27 日
- ② 植田幾代氏（連雀地区住民協議会副会長、文化部会・スポーツ部会所属）、於 2023 年 11 月 10 日

事前に各インタビューに送付していた主な質問内容は、連雀 CC 全体に関するもの（調査項目①～③）、音楽イベントに関するもの（調査項目④～⑨）に大別され、詳細は以下である。

- ① 今の市民利用に関して感じている課題
- ② 今後、頻度の増減を検討したいと考えているジャンル・イベントとその理由
- ③ 今後の市民利用に関しての希望
- ④ 音楽イベントの現状の開催頻度
- ⑤ 他ジャンルと比べて音楽イベントは多い印象か、少ない印象か
- ⑥ 今後の音楽イベントの頻度・内容に関して、事務局・住民協議会での希望（とその理由）
- ⑦ 音楽イベントを開催するにあたって感じている課題
- ⑧ 音楽イベントを増やすとした場合に考えられる運営上の問題
- ⑨ コンサート等のイベントで行っているアンケート・市民からの意見の行事内容への反映状況

音楽イベントに関するものについては、2.3 節で他のコミュニティ・センターの状況と併せて詳述するため、2.2 節ではコミュニティ・センター全体の利用に関わる項目のみを扱うこととする。インタビュー調査で得られた回答については、2.2.2 項で調査項目①、2.2.3 項で調査項目②、③の整理・分析結果を詳述する。

2.2.2 連雀コミュニティ・センター（連雀地区住民協議会）の現状と課題

2.2.1 項、調査項目①に関して、他のコミュニティ・センターの現状と重なる部分も大きいですが、以下のような課題があることが分かった。

- (1) コミュニティ活動（住民協議会）への参加者の高齢化、固定化、担い手不足
- (2) コミュニティ・センター利用者の高齢化、固定化、二極化（良く利用する少数の住民とほとんど利用しないそれ以外の住民）
- (3) 利用しない層からは以下のように思われてしまっている
 - ① 施設が閉鎖的
 - ② シニア世代の利用するところ
 - ③ 理由がないと入ってはいけない
 - ④ 何の施設なのか分からない

(1)に関して、連雀住区はマンション等の集合住宅が多く、地域の繋がりが希薄になりがちであるため、他の住区と比べても、住民協議会が地縁組織の代表という意味合いが弱まってしまっている現状がある。住民協議会の委員は、①町会・自治会・PTA・消防団等諸団体枠、②登録自主グループからの推薦義務枠、③公募の3種類で構成されているが、繋がりが希薄という住区の特性もあり、①、②の枠に関しては団体内の任期が終わると離れていく人が多い。③については改選前に広報紙等で告知する程度で、市民に広く認知されているとは言えないため、告知方法の工夫等も含めて、まちづくりに興味のある層の呼び込みが急務である（古張氏）。

(2)に関して、コミュニティ・センターの存在自体を知らない層が一定数存在する。また、存在は知っていても、(3)のように感じて利用に至らないケースが多いため、二極化が起きてしまっているのではないかと（同氏）。

2.2.3 連雀地区住民協議会が望む連雀コミュニティ・センターの今後

2.2.1 項、調査項目②に関して、市民からの要望が多いため、今後は子育て関連事業や多世代交流事業を増やしたい（古張氏）。コンサート自体はあちこちで開催されているが、有料、子ども不可など制約があるものも多い。様々な理由で音楽ホールに足を運ばないような方にも気軽に楽しんでもらいたいため、無料で聴けることにこだわりたい（植田氏）。減らしたいジャンル・イベントはない（両氏）。

また2.2.1 項、調査項目③に関しては、以下の5点を実現していきたいとの意向であることが分かった（(5)①のみ、現状で既に達成されていると考えられる）。

- (1) 若い世代を呼び込むこと
- (2) 若い世代を含む新しい利用層に定着してもらうこと
- (3) 子どもがシニア世代を、シニア世代が子どもを、といった相互見守り
- (4) サードプレイス¹³⁾としての機能の充実（様々な人の居場所作り）
- (5) 以下の3つの役割を果たすこと
 - ① 目的があって行く場所
 - ② 目的がない人も自由に過ごせる開かれた居場所
 - ③ “やりたい”、“はじめたい”をサポートして人と人とを繋ぐハブ的な機能を担う場所

本項の(1)~(5)については、音楽アウトリーチの実施を通して実現できる可能性があるかを3.4節で考察するとともに、これらの方向性は連雀地区住民協議会のみでなく三鷹市全体でのコミュニティに関する課題解決に繋がっていると捉え、音楽アウトリーチによるアプローチに限らず、広い視点での連雀CC、三鷹市への提案を4章で行う。

2.3 音楽アウトリーチの実施状況

2.3.1 全コミュニティ・センターの現状と事務局担当者所感

市内のコミュニティ・センターにおける音楽イベントの実施状況に関して、各住民協議会の事務局に対してヒアリングを行った結果を表1に示す（施設名は開館年順に記載）。質問は以下の8項目とした（今回は、1.2節、条件①~④'を満たす音楽アウトリーチのみに限定せず、それらを含む音楽イベント全般の実施状況について確認した）。

なお、今回焦点を当てている連雀CCと、プロの音楽家を招いて40年近くにわたり継続的にコンサートを開催している新川中原コミュニティ・センター（以下、新川中原CCと略記する）には事務局担当者に対する対面インタビューにて、他の5つのコミュニティ・センター（大沢、牟礼、井口、井の頭、三鷹駅前）には書面（電子メール）にてヒアリングをした。

- ① 音楽イベントの現状の開催頻度
- ② 他ジャンルと比べて音楽イベントは多い印象か、少ない印象か
- ③ 今後の音楽イベントの頻度・内容に関して、事務局での希望（とその理由）
- ④ 音楽イベントを開催するにあたって感じている課題
- ⑤ 音楽イベントを増やすとした場合に考えられる運営上の問題
- ⑥ 「音楽イベントの実施によってこのようなことを実現したい」という希望
- ⑦ 今の市民利用に関して事務局で感じている課題、今後の市民利用に関しての希望
- ⑧ その他、補足

表1 市内の7コミュニティ・センター（CC）における音楽イベントの実施状況・事務局担当者所感

	大沢	牟礼	井口	井の頭	新川中原	連雀	三鷹駅前
①	年1回	年3回	年6回	年6回	年4回	年1-2回	年1回
②	少ない	少ない	少ない	多い	少なくはない	少ない	少ない
③	なし (要望次第)	増やしても良い (市民からの要望)	増やしても良い (市民からの要望)	現状維持 (十分な頻度)	現状維持 (十分な頻度)	増やしたい (市民からの要望など)	現状維持 (要望がない)
④	なし	会場の設備等	予算の不足	人手不足	なし	奏者探し	奏者探し
⑤	人手不足	来年度に関しては大きな問題はなし	会場の確保、予算の不足	予算の不足、人手不足	予算の不足、人手不足	予算の不足、人手不足	予算の不足
⑥	なし	施設を多くの人に知って欲しい、ミドル世代に足を運んで欲しい、若手演奏家を支援したい	若者層・ミドル層にも足を運んでほしい	施設に足を運ぶ機会になると良い	地域の方々に身近に文化に触れてもらう、施設を知ってもらうきっかけになると良い	若者層・ミドル層にも足を運んでほしい	施設を多くの人に知って欲しい
⑦	ルールを守らない子供の利用者が多い	今利用していない層(特に若い世代)も呼び込みみたい	今利用していない層も呼び込みみたい	施設を知ってもらい、住協活動に参加する人が増えると良い	このまま広い世代に利用してもらいたい	今利用していない層も呼び込みみたい	今利用していない層も呼び込みみたい
⑧	町会もコミセンも人手不足で、イベント開催が困難になりつつある。	音楽イベントに限らず、大きな音の出るイベントでは周辺住民からご意見をいただくので、丁寧な対応が必要。	音楽イベントは増やしたいが、体育館や部屋の利用は別に需要があり会場確保が難しい。	コミセンが地域のニーズに応え、コミュニティ活動の中心になっていくと良い。	全コミセンで、小規模でも音楽イベントが行われていれば、市全体で音楽に触れる機会が増えるので良い。	現状、何をするにも制度を守ることが優先されてしまっている。今後はコミュニティの醸成という目的の達成を優先し、幅広い市民が参加できる施設づくり・住協活動を展開していきたい。	公共の施設などで幅広い世代に利用を促したい。

また、長年にわたる定期的な音楽イベントの実施により、イベントが定着している施設の1つである新川中原CCについては、2023年11月22日、担当者である葛西佑治氏（新川中原住民協議会事務局職員、文化部会担当）に対して筆者による半構造化インタビューを行ったため、表1に記載していない部分を補記する。

同施設では、1986年度よりロビーコンサート（音楽サロン）がはじまり、1994年度からは年5回のペースで、その後2000年からは年4回のペースで現在まで継続的に実施されている。概ね土曜日の夜に行う2時間のコンサートで、来場者は多い時には100人以上にのぼり、ジャンルは、津軽三味線や琴などの邦楽、オペラやシャンソンなどの歌、ヴァイオリンやオーボエなどのクラシック音楽、タンゴやフラメンコなど踊りの要素を取り入れた公演等、多岐にわたる。2007年度までは全て社会教育会館との連携事業であったが、市からの予算削減の影響を受け、2008年度からは連携事業3回・自主事業1回という比率に、2014年からは連携事業1回・自主事業3回という比率になり現在に至る。

施設側は「地域の方々に文化に触れていただきたい」という理念のもとにイベントを行っており、市民の「普段使っているコミュニティ・センターにプロの音楽家が来てくれる!」、「間近で様々なジャンルの音楽が聴けて

嬉しい！」という思いを大切にしている、リピーターも多いとのことであった。音楽イベントを主催する文化部会の所属委員の人数は少ないながらも、住民のコミュニティ活動に対する熱量が大きい地域であることも手伝い、ここまで長期にわたって事業を継続できているため、住民協議会の抱える諸問題解決のための開催という意図はないが、開催が副次的に解決に繋がればという意向であることが分かった。

2.3.2 連雀コミュニティ・センターでの実施内容詳細

古張氏によると、連雀 CC での住民協議会主催の音楽イベント（ロビー・大集会室を使用したコンサート）は、10 年前から定期開催が始まり、これまで年に 2 回程度実施してきている（表 2 参照）。

コンサートの開催経緯に関して、植田氏によると、最初はクラシック音楽の底辺を広げる目的で、若い人の腕試しの意味合いも込めて、当時は珍しかった「子どもが泣いても OK」という環境で、沢山の人の聴いてもらえるように、入場無料のコンサートを始めた。演奏者がどんな演奏をしてくれるようになるのか成長を見たいという事で、その後も毎年開催している、とのことであった。

住民協議会・文化部会所属の委員が、市内の知人の学生、演奏家に依頼する形式で開催しているため、これまでは特定の楽器の演奏頻度が高い、デュオが多い等、演奏楽器や編成はやや固定化されている印象である。こちらに関しては、2.2.1 項、調査項目⑨で確認を行ったが、コンサートの際に来場者に対して実施したアンケートは都度集計しているものの、委員のつが限られているため、要望に沿う楽器や編成、ジャンルの奏者を探すことが難しい状況が続いているとの回答であった（古張氏）。

表 2 連雀 CC における住民協議会主催のコンサート一覧

№	開催年月日・時間	事業種別	行事名	演奏形態	対象	申込方法	参加費用の有無	実施場所	演奏者種別
1	2014年9月24日午後2時	文化部会事業	ロビーコンサート	デュオ(ヴァイオリン・ピアノ)	三鷹市民無制限	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	学生
2	2015年8月2日午後2時	文化部会事業	ミニコンサート	デュオ(ヴァイオリン・ピアノ)	三鷹市民無制限	当日直接会場へ	無料	2階大集会室	学生
3	2015年11月22日午後1時半	文化部会事業	アンサンブルコンサート	ミニオーケストラ	三鷹市民無制限	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	学生
4	2016年8月7日午後2時	文化部会事業	アンサンブルコンサート	デュオ(ヴァイオリン・ピアノ)	三鷹市民無制限	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	学生
5	2017年2月4日午後2時	文化部会事業	アフタヌーンコンサート	デュオ(オーボエ・ピアノ)	三鷹市民無制限	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	専門家
6	2017年8月6日午後2時	文化部会事業	ミニコンサート	デュオ(ヴァイオリン・ピアノ)	三鷹市民無制限	当日直接会場へ	無料	2階大集会室	学生
7	2018年3月24日午後2時	文化部会事業	アフタヌーンコンサート	デュオ(オーボエ・ピアノ)	三鷹市民無制限	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	専門家
8	2018年8月5日午後2時	文化部会事業	ヴァイオリンとピアノのコンサート	デュオ(ヴァイオリン・ピアノ)	三鷹市民先着60名	当日直接会場へ	無料	2階大集会室	学生
9	2019年5月26日午後2時	文化部会事業	アフタヌーンコンサート	デュオ(オーボエ・ピアノ)	三鷹市民先着60名	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	専門家
10	2019年7月27日午後2時	文化部会事業	東京藝大生によるクラシックコンサート	トリオ(ヴァイオリン、ピアノ、チェロ)	三鷹市民先着60名	当日直接会場へ	無料	2階大集会室	学生
11	2019年11月16日午後2時	文化部会事業	アルバコンサート	アルバ/ソロ	三鷹市民先着60名	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	専門家
12	2021年9月10日(収録日)	文化部会・多世代交流委員会共催事業	【オンライン】カルテットコンサート	カルテット(ヴァイオリン×2、ビオラ、チェロ)	三鷹市民無制限	事前オンライン受付	無料	2階大集会室	専門家
13	2022年8月20日午後2時	文化部会・多世代交流委員会共催事業	“Violin Quartet TAKEYUMI”ミニコンサート	カルテット(ヴァイオリン×4)	三鷹市民先着40名	事前オンライン受付	無料	1階ロビー	専門家
14	2023年3月4日午後1時半	文化部会事業	コリナコンサート	アンサンブル(コリナ×4、クラリネット、キーボード)	三鷹市民先着30名	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	愛好家
15	2023年7月16日午後2時	文化部会事業	弦楽四重奏コンサート	カルテット(ヴァイオリン×2、ビオラ、チェロ)	三鷹市民先着40名	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	専門家
16	2023年8月26日午後2時	多世代交流委員会事業	クラリネットによる夏休みコンサート	クラリネットソロ、音源	三鷹市民先着30名	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	専門家
17	2023年11月12日午後2時	文化部会事業	二胡とクラリネットでも奏の調べ	デュオ(二胡・クラリネット)	三鷹市民先着50名	当日直接会場へ	無料	1階ロビー	専門家

なお、2023年8月26日と同11月12日に実施されたコンサート（No.16、No.17）に関しては、筆者自身が行ったものである。

2.3.3 音楽アウトリーチ実施における障壁

2.3.1 項、表 1 から、全 7 施設のうち 5 施設が音楽イベントの頻度を「少ない」と感じており、そのうちの 3 施設が市民からの要望等により頻度を「増やしても良い」、「増やしたい」と考えていることが分かった。1.3 節の先行研究においても同様の課題が示されていたが、三鷹市内でもイベントの実施においては「会場の設備」、「予算不足」、「奏者探し」が課題となっていることが分かった。また、現状の実施頻度、もしくは仮に頻度を増やした場合の課題の項目には、4 施設が 2.2.2 項の項目(1)コミュニティ活動の担い手不足が原因の 1 つと考えられる「人手不足」を挙げており、今後もコミュニティ活動を維持、もしくは今より更に充実した活動を行っていくためには、三鷹市（2023b）でも示されているように、行政との連携による早急な課題解決が望まれる。また、今後は音楽イベント等を通して「施設を多くの人に知って欲しい」、「利用率が低い（今利用していない）層にも来場して欲しい」と考えている施設が多く、こちらは連雀 CC の今後の意向、2.2.3 項の項目(1)、(2)とも合致する。

「予算不足」、「人手不足」という課題を抱えている施設が多く、それがイベント実施の障壁の1つになっていることが確認されたが、新川中原CCのように、音楽アウトリーチを継続的に実施していくことが、住民のニーズを満たしQOL向上に寄与する、施設の認知度向上や利用者定着の一助となり、コミュニティ活動への参加が促進される等、地域の諸問題の解決に繋がる可能性は充分にあると考えられる。

3 連雀コミュニティ・センターで実施したコンサートの事例検討

2023年8月と11月に、連雀CCにて筆者によるコンサート（2.3.2項の表2、No.16、No.17）を実施したが、その際、住民の音楽アウトリーチに対するニーズがあるか、施設の利用機会が多くない層に足を運んでもらえるか、そのような場が住民のQOL向上に寄与しうるか、等を調査する目的で来場者へのアンケートを行った。本章では、2回のコンサートの概要を示すとともに、アンケートの回答の集計結果と分析、および事務局担当者の所感から考察を行う。

3.1 第1回コンサート（クラリネットによる夏休みコンサート）の事例

3.1.1 コンサートの概要

第1回コンサートの概要を表3に、コンサート風景を図4、図5に示す。

表3 第1回コンサートの概要

催事名	クラリネットによる夏休みコンサート
開催日時	2023年8月26日（土）14:00-14:45
場所	連雀コミュニティ・センター 1階ロビー
内容	クラリネットソロと音源伴奏によるコンサート 9曲+アンコール1曲、聴衆参加型プログラムあり（歌唱、手拍子、Q&A コーナー）
入場料/年齢制限	なし（主なターゲット層：子ども～ミドル世代）
来場者	75名



図4 第1回コンサート風景①



図5 第1回コンサート風景②

3.1.2 来場者アンケートの回答と分析、担当者所感

来場者に配布したアンケートの内容（表4）と集計結果（図6～14）、および分析を以下に示す。アンケートは回収率を高められるよう、用紙への直接記入とグーグルフォームを用いた web からの入力を併用し、37名から回答を得た。

選択形式の質問（1～6、8、11、12）については定量的な分析を行い、自由記述形式の質問（7、9、10、13）に関しては定性的な分析を行った。質問7と質問10に関しては、定性データを数値化（定量的に分析）し、結果を分かりやすく可視化する目的で、ユーザーローカル AI テキストマイニングツール（<https://textmining.userlocal.jp/>）を補完的に用いた。

表4 来場者アンケート質問項目（*は必須回答）

質問1	お住まいの地域* 上連雀/下連雀/野崎/井口/井の頭/牟礼/大沢/新川/中原/北野/深大寺/その他
質問2	ご年齢（お連れの方がいる場合、来場者全員分をお答え下さい）* ※複数選択可 10代以下/20代/30代/40代/50代/60代/70代/80代以上
質問3	性別 男性/女性/その他
質問4	連雀コミュニティ・センターでのコンサートに来場されたのは何回目ですか？* 1回目/2回目/3回目/4回目/5回以上
質問5	連雀コミュニティ・センターでの他の催し（コンサート以外の事業）のうち、参加されたことのあるものに <input checked="" type="checkbox"/> をお願いします ※複数選択可 環境関連事業（寄せ植え・リースづくり・剪定講習・ベランダ菜園等）/ 文化関連事業（エコくらふと・折り紙・クリスマス会・書き初め・読書会等）/ スポーツ関連事業（バドミントン・水泳・パドルテニス・ハイキング等）/ 厚生関連事業（平家物語・源氏物語・方丈記・百人一首・昭和歌謡等）/ 健康関連事業（栄養料理教室等）/防災関連事業（救命講習・防災訓練等）/ 多世代関連事業（ストレッチ・キックボクシング・DIY・自然観察・ベビーマッサージ等）/ コミュニティまつり/その他（自由記述）
質問6	今回の満足度* 不満足 1 2 3 4 5 満足
質問7	選択された満足度の理由をお答えください（自由記述）
質問8	今回の開催日時* 不満足 1 2 3 4 5 満足
質問9	選択された満足度の理由をお答えください（ご希望の日程等ございましたら併せてご記入ください）（自由記述）
質問10	本日の感想等ご自由にお書きください（自由記述）
質問11	この事業をどのようにしてお知りになりましたか？* ※複数選択可 連雀コミュニティ・センターのホームページ/ポスター・ちらし/連雀CC広報紙「けやき」/ 屋外掲示板/三鷹市報/友人・知人/出演者から/その他（自由記述）
質問12	今後もコミセンでの催しに参加したいですか？* もう参加しない 1 2 3 4 5 必ず参加する
質問13	今後、コミセンで実施を希望する催しはございますか？（自由記述）

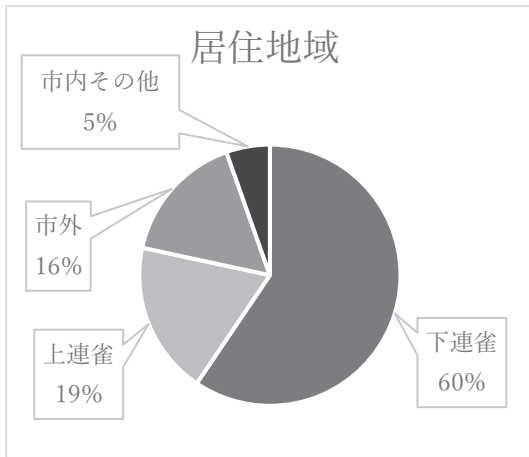


図6 質問1回答（居住地域）

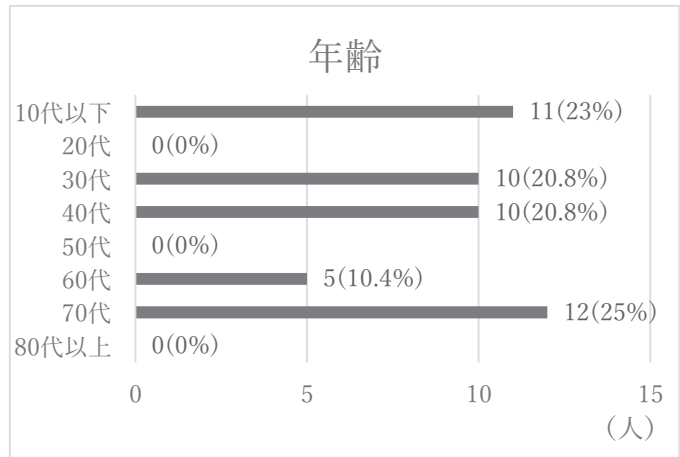


図7 質問2回答（年齢）

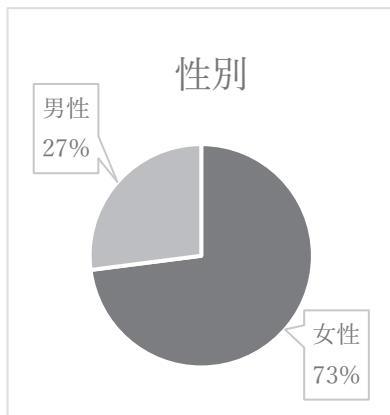


図8 質問3回答（性別）

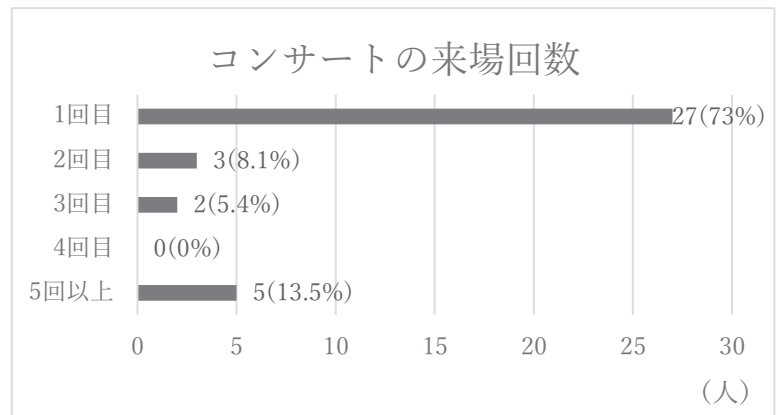


図9 質問4回答（コンサートの来場回数）

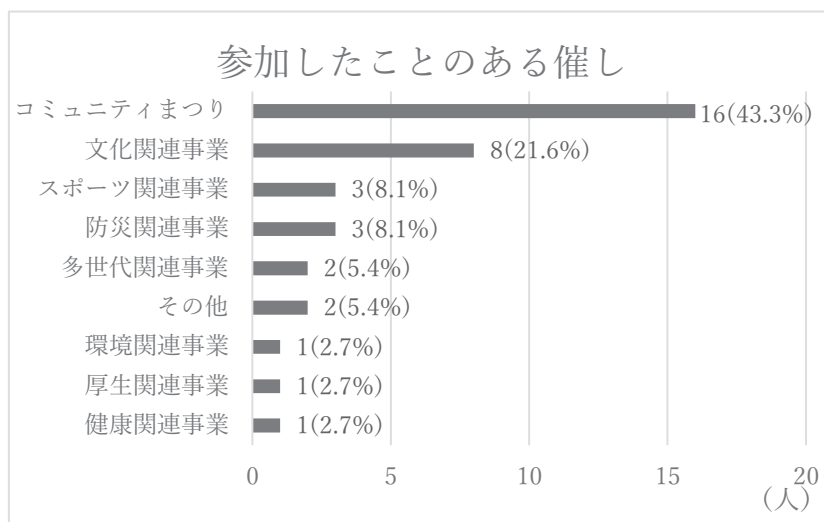


図10 質問5回答（これまでに参加したことがある催し）

選択形式の質問に関して、まず回答者の属性としては、連雀地区（上連雀・下連雀）の住民の割合が79%、女性の割合が73%と多く、年齢層は10代以下・30代・40代・70代がほぼ同じ割合であった（図6～8参照）。連雀CCのコンサートに初めて足を運んだという人が73%であったが、5回以上のリピーターも約14%いたことが

確認できた（図9参照）。今までに参加したことのある催しは「コミュニティまつり」が1番多く、次いでコンサートなどを主催する文化部会の関連事業となった（図10参照）。コンサートの満足度は「満足」、「やや満足」を合わせて約84%となり（図11参照）、開催日時（8月の土曜日の午後2時）は「満足」、「やや満足」を合わせて約92%となった（図12参照）。催しを知ったきっかけは「ポスター・チラシ」が最多、次いで「三鷹市報」、「出演者から」、「連雀CC広報紙『けやき』」、「友人・知人」の順となった（図13参照）。今後の催しへの参加意向は「必ず参加する」、「参加すると思う」を合わせて75%となった（図14参照）。

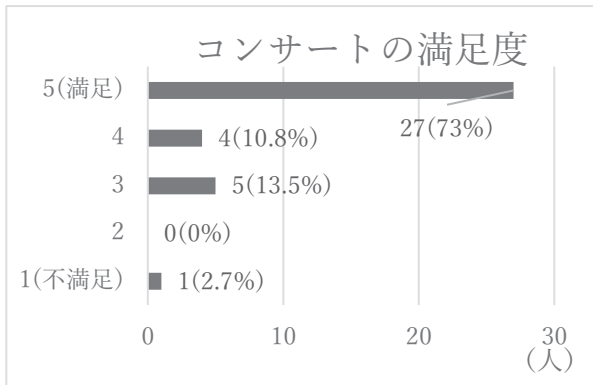


図11 質問6回答（コンサートの満足度）

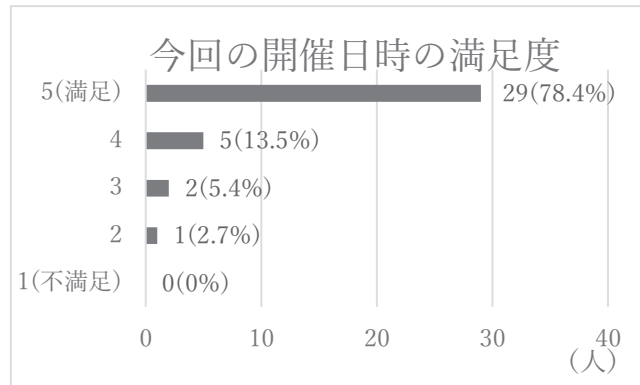


図12 質問8回答（今回の開催日時の満足度）

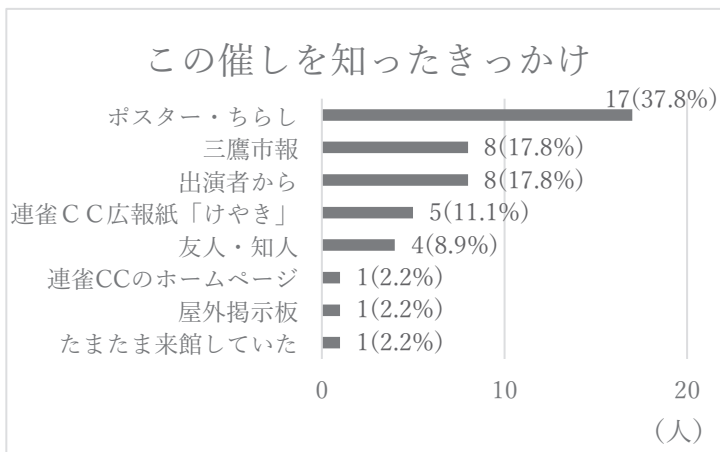


図13 質問11回答（この催しを知ったきっかけ）

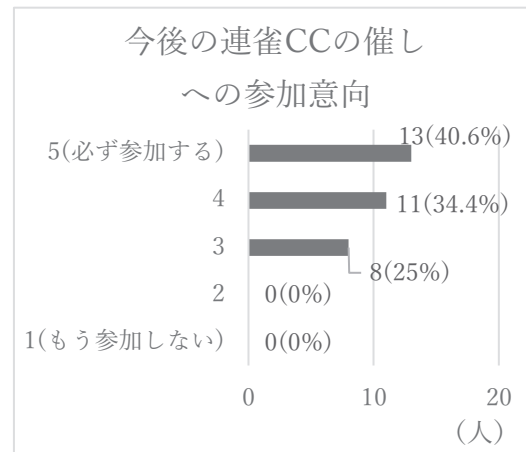


図14 質問12回答（催しへの参加意向）

自由記述形式の質問に関して、まずコンサートの満足度の理由（質問7）については、「エントランスホールでの開催が敷居が低くてよかった」、「小さい子どもスペースがあつて良かった」、「小さい子どもから大人まで幅広い世代が楽しめるコンサートだった」など、「良かった」、「楽しかった」という意見が多かったが、前問（質問6）で「普通」、「不満足」の項目を選んだ人の意見に着目してみると、「子どもの声がうるさかった」、「クラシック音楽でなかった」という声もあった。開催日時の満足度の理由（質問9）についてはやはり、「ちょうど良い」という意見が多数だったが、前問（質問8）で「普通」、「やや不満足」の項目を選んだ人を中心に、「猛暑（8月後半）でない方が良い」という声が複数あった。感想等（質問10）については、コンサートの内容に関する意見のほか、「間近で演奏を聴けて良かった」、「アットホームなコンサートで良かった」などコミュニティ・センターでの開催ならではの意見、「子連れOKのところは少ないのでありがたかった」、「子どもに楽器の演奏を見せてあげられて良かった」など子どもに関する意見と、「0歳から入場できるこのような企画をぜひまたやって欲しい」という意見も多数寄せられた。また、「子どもの声が気になったので年齢制限を設けてほしい」、「イベ

ント後に解散でなく、そのまま施設で遊べる、物事を相談できる場があると良い」といった声もあった。今後希望する催し（質問 13）については、コンサート（ジャズ、様々な楽器のもの、今回のようなもの等）の他に、演劇、映画上映、DIY、歌唱指導、親子で楽しめるイベントといった意見が出た。

最後に、質問 7、10 のそれぞれの回答（質問 7、10 とともに 26 件ずつ）に対して、テキストマイニングを行った結果を以下に示す。ワードクラウドは、出現回数の多い単語ほど大きく表示される仕組みで、感情分析は、全ての感情の平均値を 50%とし、文章中の各感情の度合いを数値に換算してグラフ化したものである。ワードクラウドは、「クラリネット」、「演奏」、「音色」といった単語の他に、自由記述内に複数回出てきたキーワード、動詞や形容詞等を中心に図が構成されている（図 15、17 参照）。感情分析では、「喜び」、「好き」の感情の度合いが高かったことが分かる（図 16、18 参照）。

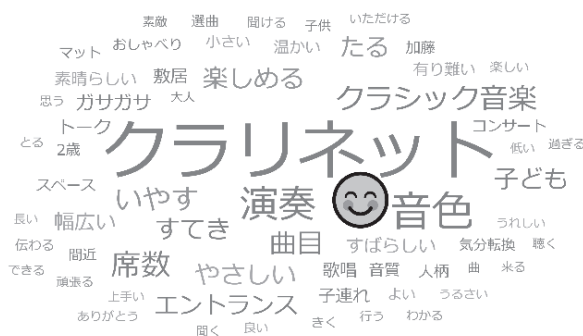


図 15 質問 7 回答によるワードクラウド

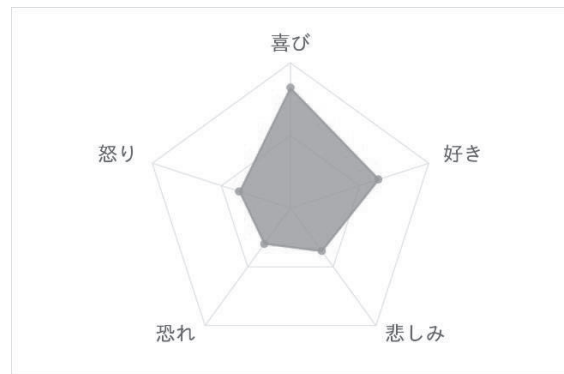


図 16 質問 7 回答による感情分析

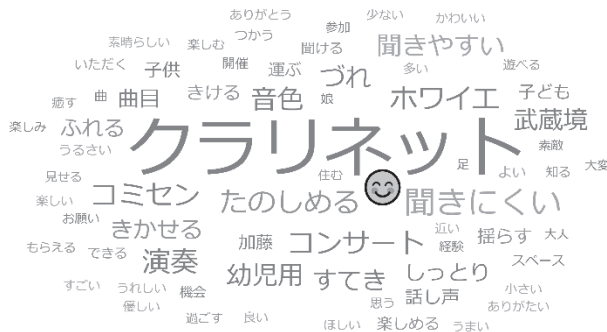


図 17 質問 10 回答によるワードクラウド

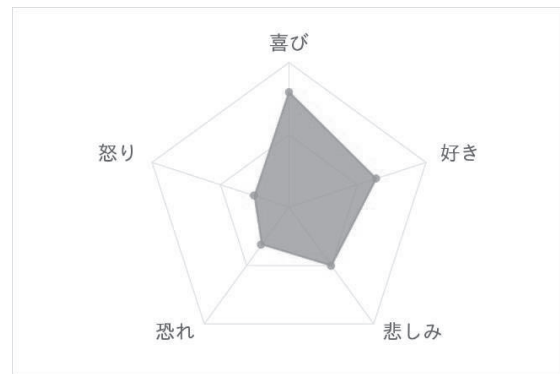


図 18 質問 10 回答による感情分析

コンサートに対する事務局の担当者所感としては、今までも乳幼児可のコンサートはあったが、乳幼児スペース（シートの上に座布団を敷いてフラットに座れる席）を設けたのは初めてで、小さい子ども連れの保護者の方が来やすい環境を整えられて良かったとのことであった。一方で、ベビーカーを置く場所をどうするか等新たな問題も生じたため、今後もし類似の催しを継続していく場合は、予めスペースの確保を行う等、環境を整える予定である。

3.2 第2回コンサート（二胡とクラリネットで奏でる秋の調べ）の事例

3.2.1 コンサートの概要

第2回コンサートの概要を表5に、コンサート風景を図19、図20に示す。

表5 第2回コンサートの概要

催事名	二胡とクラリネットで奏でる秋の調べ
開催日時	2023年11月12日（日）14:00-15:00
場所	連雀コミュニティ・センター 1階ロビー
内容	二胡とクラリネットによるデュオコンサート 14曲+アンコール1曲、聴衆参加型プログラムあり（歌唱）
入場料/年齢制限	なし（主なターゲット層：ミドル～シニア世代）
来場者	102名



図19 第2回コンサート風景①



図20 第2回コンサート風景②

3.2.2 来場者アンケートの回答と分析、担当者所感

来場者に配布したアンケートの回答の集計結果（図21～29）、および分析を以下に示す。アンケート内容、回収方法、分析方法は第1回コンサートと同様で、62名から回答を得た。

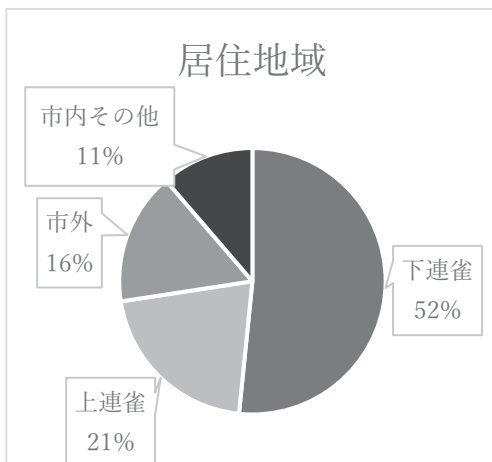


図21 質問1回答（居住地域）

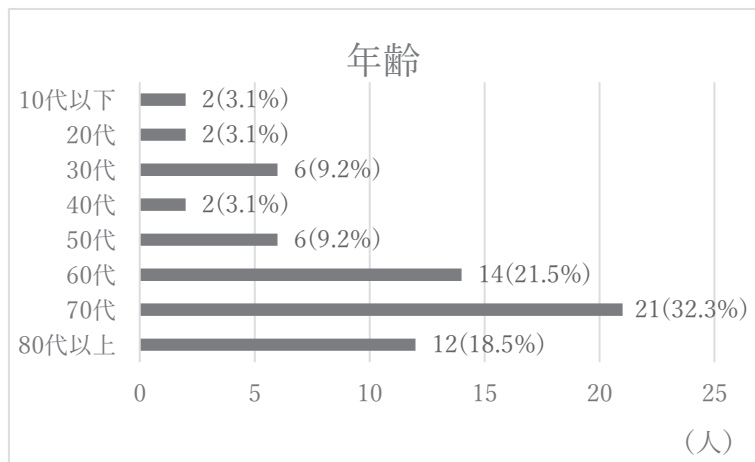


図22 質問2回答（年齢）

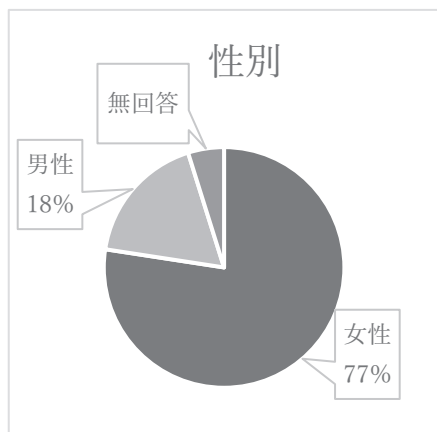


図 23 質問 3 回答 (性別)

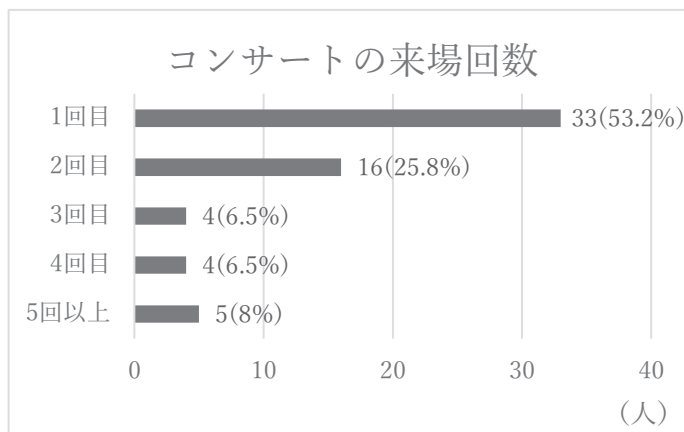


図 24 質問 4 回答 (コンサートの来場回数)

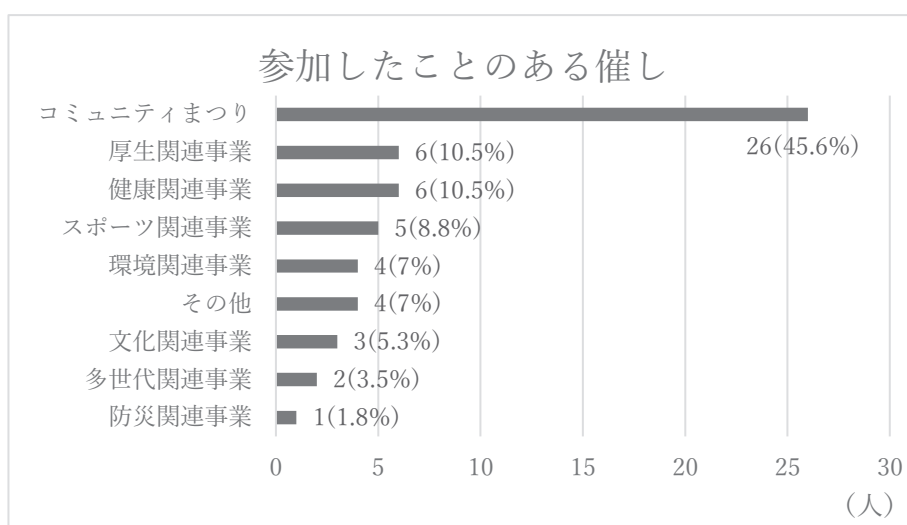


図 25 質問 5 回答 (これまでに参加したことがある催し)

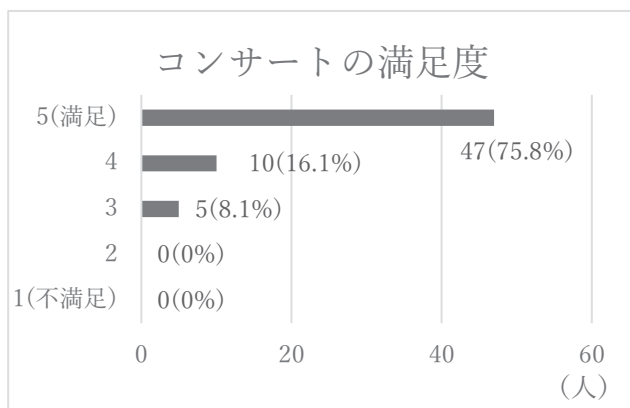


図 26 質問 6 回答 (コンサートの満足度)

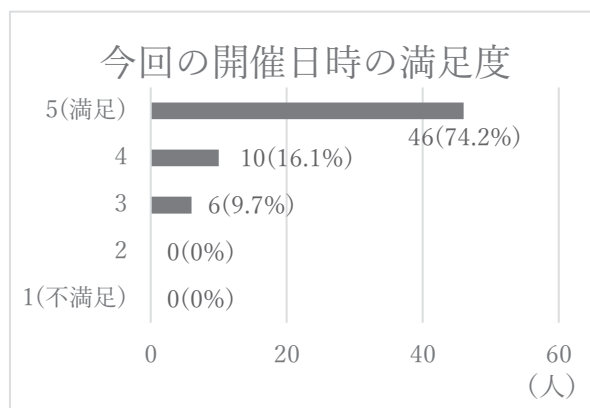


図 27 質問 8 回答 (今回の開催日時の満足度)

選択形式の質問に関して、まず回答者の属性としては、連雀地区（上連雀・下連雀）の住民の割合が 73%、女性の割合が 77%と多く、年齢層は 60 代以上が約 72%であった（図 21～23 参照）。連雀 CC のコンサートに初めて足を運んだという人が半数以上であったが、2 回目の人が約 26%、3 回以上のリピーターも 21%いたことが確認できた（図 24 参照）。今までに参加したことがある催しは「コミュニティまつり」が最多で半数近くにのぼ

り、次いで各部会の関連事業となった（図 25 参照）。コンサートの満足度は「満足」、「やや満足」を合わせて約 92%となり（図 26 参照）、開催日時（11 月の日曜日の午後 2 時）は「満足」、「やや満足」を合わせて約 90%となった（図 27 参照）。催しを知ったきっかけは「連雀 CC 広報紙『けやき』」が最多、次いで「ポスター・チラシ」、「三鷹市報」、「友人・知人」の順となった（図 28 参照）。今後の催しへの参加意向は「必ず参加する」、「参加すると思う」を合わせて約 56%となった（図 29 参照）。

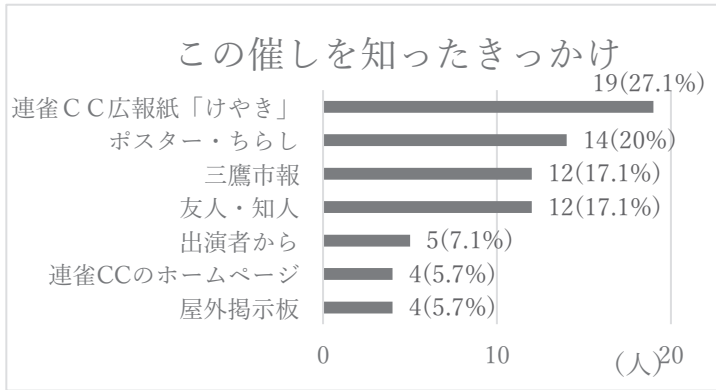


図 28 質問 11 回答（この催しを知ったきっかけ）

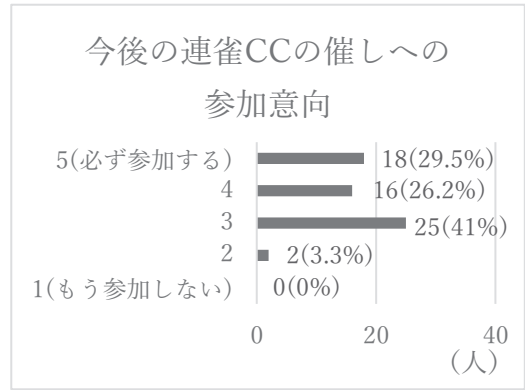


図 29 質問 12 回答（催しへの参加意向）

自由記述形式の質問に関して、まずコンサートの満足度の理由（質問 7）については「二胡の演奏を初めて聴けて良かった」、「2つの楽器のハーモニーが良かった」など「良かった」、「楽しかった」という意見がほとんどであったが、「他の部屋で行っていた催しの音がうるさかった」という声もあった。開催日時の満足度の理由（質問 9）についてはやはり「ちょうど良い」という意見が多数だったが、「市内の他の行事と被らないとなおありがたい」という声もあった。感想等（質問 10）については、コンサートの内容に関する意見のほか、「無料で聴けて贅沢だった」、「手作り感があって良かった」、「アットホームで生演奏を楽しめた」などコミュニティ・センターでの開催ならではの意見も寄せられた。また、「手元を見たいのでステージを作ったらどうか」、「騒音が気になった」といった設備に関する声もあった。今後希望する催し（質問 13）については、コンサート（ジャズ、様々な楽器のもの、小規模なもの、今回のようなもの等）の他に、楽器体験会、ダンス、バザー、各種勉強会といった意見が出た。

最後に、質問 7、10 のそれぞれの回答（質問 7：37 件、質問 10：39 件）に対して、テキストマイニングを行った結果を以下に示す。ワードクラウドは、「二胡」、「クラリネット」、「音色」、「ハーモニー」といった単語の他に、自由記述内に複数回出てきたキーワード、動詞や形容詞等を中心に図が構成されている（図 30、32 参照）。感情分析では、第 1 回と同様、「喜び」、「好き」の感情の数値が大きいことが分かる（図 31、33 参照）。

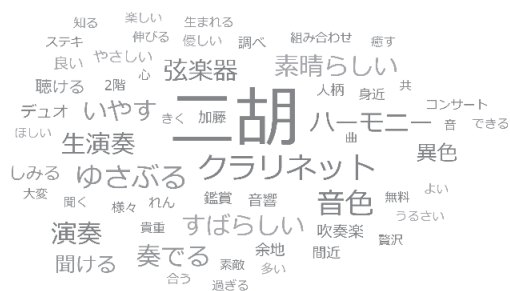


図 30 質問 7 回答によるワードクラウド

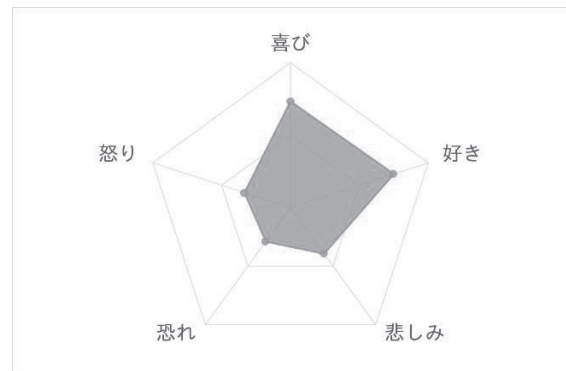


図 31 質問 7 回答による感情分析

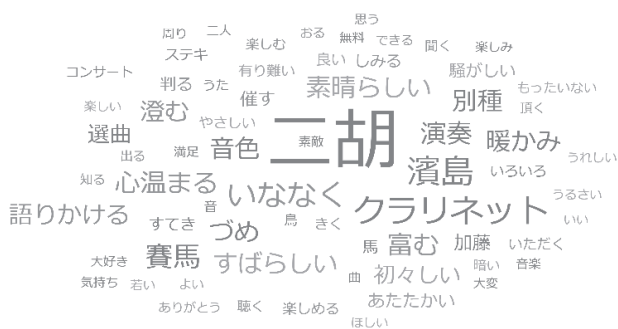


図 32 質問 10 回答によるワードクラウド

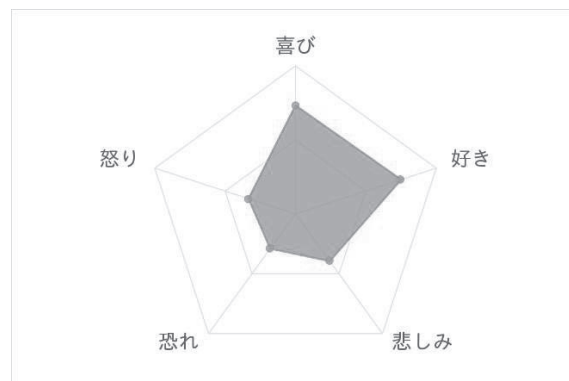


図 33 質問 10 回答による感情分析

担当者所感としては、二胡という連雀 CC 初登場の珍しい楽器が入った編成であったこともあり、注目度が高く沢山の方に足を運んでもらえて良かった、2 階席を設けてより多くの方に聴いてもらえたこと、大人の方は 1 階、騒いでしまいそうな子供たち・ベビーカーなど大きいスペースが必要な方は 2 階と客層に応じた誘導ができたことは良かったとのことであった。また、今回は連雀地区の住民の来場が多かったが、事務局としては住区を越えて多くの市民に利用してもらいたい（これは市の掲げる住民協議会、コミュニティ・センター間の交流を活発にしたいという方向性とも一致する）と考えていることが分かった。

3.3 2 回のコンサートを通じた考察

本節では、1.2 節の本研究の《目的》(2)①～④に沿って論を進める。

まず、①住民のニーズがあるか、について考察する。今回は連雀 CC のロビーの大きさ、備品の椅子の数などを考慮して、第 1 回は先着 30 名（乳幼児スペースを含む）、第 2 回は先着 50 名として各媒体に掲載を依頼したが、実際には各回とも定員の 2 倍を上回る来場者だったこと、どちらの回も、このような企画をまたやって欲しいという意見が多くあったため、住民の連雀 CC でのコンサート（音楽アウトリーチ）実施に対するニーズは十分に高いと考えられる。

次に、②音楽鑑賞機会や施設の利用機会が多くない層に足を運んでもらうことができるか、について述べる。各回とも、連雀 CC のコンサートに初めて来場したという層が最も多かったこと、コンサート以外の催しに参加したことのない層が半数近くいたことから、あまり施設の利用機会が多くない住民にも足を運んでもらうことができたと考えられる。また、三鷹市（2023a）では、音楽鑑賞等を行わない理由に、30 代の約半数、40 代の約 3 分の 1 が「子育てや介護、家事で忙しくて時間がないため」と答えていること¹⁴⁾、第 1 回コンサートでは、子どもと一緒に来られるコンサートが少ないのでありがたい、という意見が複数あったことから、30 代・40 代の世代をはじめ、音楽鑑賞をしなくてもなかなかする機会のない住民にも足を運んでもらえたのではと推察されるが、こちらに関しては、チラシや広報紙でのコンサートの周知内容（付録の項参照）の工夫（乳幼児スペース有の表記、曲目を複数載せることで、コンサートに対するイメージを沸きやすくし、来場への心理的障壁を低くする）がある程度奏功したのではないかと考えられる。

続いて、③そのような（音楽アウトリーチの）場が住民の QOL 向上に寄与しうるか、についてだが、各回とも来場者の満足度が高かったこと、ポジティブな意見が大半を占めていたことから、今回のような機会が、ワクワクしたりリラックスしたりできる非日常的な場を提供する、日々の疲れを癒して活力を生み出す、身体・精神の両面で健康や成長を促進する、といった QOL 向上に寄与できた可能性は高い。

最後に、④長期的にはコミュニティ活動に関する地域課題の解決の一端を担う可能性を有するか、について考

える。“コミュニティ活動に関する地域課題”は様々なものが考えられるが、ここでは、1.1.2 項で述べた市の抱える4つの課題、①コミュニティに対する無関心層の増加、②コミュニティの高齢化・固定化、担い手不足、③コミュニティ間・世代間の分断、連携不足、④コミュニティ施設の整備・利便性の向上、を軸に検討したい。2回のコンサートにて、普段コミュニティ・センターをあまり利用しない層が一定数来場したこと、特に第1回ではミドル世代が多く来場したことから、①、②に関して、このような機会が新しい層が住民協議会のコミュニティ活動に興味を持つきっかけになりうると考えられる。また、③に関しては、第1回では「子どもが騒がしく演奏に集中できなかった」という声が複数あったこと、第2回では客層によって観覧エリアを分けたことから、今回のような形態のコンサートのままでは、子ども～シニア世代まで広い層が満足し、さらに多世代が交流できるという条件を満たすことは難しい。③の解決に向けては、コンサートの中で聴衆参加型の曲目を増やすだけでなく、観客（住民）同士が交流可能なワークショップ要素を取り入れる、コンサート後に座談会などの別の場での交流を試みる、音楽以外の分野とのコラボレーションを計る等が考えられるが、こちらは今後の課題としたい。④に関して、今回のアンケート結果が概ね好意的であったこと、「また連雀 CC の催しに参加したい」というリピート意向が高かったことから、音楽をはじめとするイベントを充実させることで、施設のソフト面からの利便性（親しみやすさ、足の運びやすさ）の向上を図るアプローチは十分に可能と考えられる。

3.4 音楽アウトリーチを通じた連雀コミュニティ・センターの課題解決の可能性

本節では、音楽アウトリーチの観点から、2.2.3 項で挙げた(1)～(5)の実現への道筋を検討したい。

今回のコンサート（音楽アウトリーチ）で、普段あまり施設を利用しない層も来場したこと、特に第1回では子ども～ミドル世代が多く来場したこと、今後の催しへのリピート参加意向が高かったこと、また同様の企画をやって欲しいという要望が複数寄せられたこと等から、このような企画を継続していくことで、施設に(1)若い世代を呼び込むこと、(2)若い世代を含む新しい利用層に定着してもらうことを実現できる可能性は充分にあると考えられる。連雀 CC では、コンサート（特に多世代交流を目的としたものや若い世代に向けたもの）の実施回数を増やしたいと感じていたが、様々な障壁のために前年までの内容・形式の踏襲を続けていた。しかし、今回実施した2回のコンサートで住民のニーズの多さや要望が顕在化したため、今後は具体的に機会を増やす意向であるという。その場合は、ジャンルが偏らないバランスの良い奏者探し、質の高い演奏を継続的に届けるために必要な謝礼等の予算確保が喫緊の課題になるとのことであったため、こちらに関しては施設と共に引き続き解決案の検討を行いたい。

また、(3)子どもがシニア世代を、シニア世代が子どもを、といった相互見守りの実現に向けては、3.3 節でも述べたが、市民同士が交流できずに終わってしまう単発の企画に留まらず、多世代が交流できる場に繋げていく工夫が必要となる。そこから例えば音楽サークルのような新たなコミュニティの創生が成されれば、(5)③ “やりたい”、“はじめたい”をサポートして人と人とを繋ぐハブ的な機能を担う場所としての役割も果たしうると考えられる。

(4)サードプレイスとしての機能の充実（様々な人の居場所作り）、(5)②目的がない人も自由に過ごせる開かれた居場所としての役割を果たす、という2点に関しては、音楽アウトリーチによって様々な市民の施設利用のきっかけを作ることとは可能と思われるが、居場所作りについてのより具体的な提案は、音楽アウトリーチの観点を越えて次章で行いたい。

4 連雀コミュニティ・センターと三鷹市への提案

本章では、資料やヒアリングで明らかになったコミュニティ・センターに関する課題の解決に向けて、住民のニーズに即したコミュニティ・センターの有効活用、よりスムーズなコミュニティの創生・活動継続のために、

音楽アウトリーチの観点のみによらず、広く連雀 CC、三鷹市へそれぞれ提案を行う。

4.1 連雀コミュニティ・センターへの提案

連雀 CC（連雀地区住民協議会）には、2.2.2 項で挙げた課題(1)～(3)の解決、2.2.3 項で掲げた項目(1)～(5)の実現へ向けて、以下 4 点の提案を行いたい。

1. 広報活動の工夫
2. ソフト面（イベント内容）の多様化
3. ハード面（施設の設備）のさらなる充実
4. “人”に焦点を当てた仕組みづくり

1. 連雀地区住民協議会事務局は、同協議会の抱える課題は三鷹市全体のコミュニティに関する課題と重なる部分が多いことから、引き続き住区内住民に積極的に施設を利用してもらおうと同時に、住区を越えて多くの市民に利用してもらおうことが、多様なコミュニティ創生、コミュニティ活動の活性化に繋がるのではないかと意向である。三鷹市（2023b）でも現行のコミュニティ住区を施策の核とする方針が示されつつ¹⁵⁾、幅広い団体や市民の他者連携・交流の促進の重要性も挙げられている¹⁶⁾。そこで、住区外の住民、若い世代をはじめ施設をあまり利用していない層にも確実に情報を届けて来場を促すため、イベント等の広報手段を増やすこと、具体的には、地域活性化の文脈で多くの自治体等でも活用されるようになってきた¹⁷⁾ Instagram や X 等の SNS の公式アカウントの作成、運用を提案したい（こちらは市の掲げる、デジタル技術活用の指針とも一致する）。

また、来場者にコミュニティ・センターの利用方法や住民協議会の行うコミュニティ活動の内容を伝え興味を持ってもらうという観点から、可能であれば施設や住民協議会の簡易紹介パンフレットを作成し、イベント等で配布する資料へ折り込んだり、連雀住区の特性を鑑み、マンション等の集合住宅の管理組合が施設を利用する際に、集合住宅内の住民への配布や掲示を依頼したりすることも有効ではないかと考える。

2. これまでの音楽イベント（コンサート）では、奏者探しが難しい、イベント運営に係る人手が足りない等の理由から新しい内容の企画を行えていないという状況があったが、今回新しい試みとして乳幼児スペースを設けたコンサートを実施したところ、施設に馴染みの薄い層の来場に繋げることができ、来場者の施設利用のリピート意向も確認できた（同じような企画の再開を強く望む声が多かった）。コミュニティ活動の新しい担い手の発掘・獲得や、異なる世代同士による相互見守りの実現のため、また現在の委員の持つノウハウや技術を次世代に継承していくため、（これまで以上に部会同士の共催や分野横断も視野に入れながら）子ども～ミドル世代をターゲットにした企画、子ども～シニア世代までの多世代交流を意図した多様な企画等を立案・実施していくことを提案したい。

3. 施設を利用しない層から、施設が閉鎖的、何の施設なのか分からない、と思われてしまっている現状を鑑み、まずは外から一見して施設内の機能が分かるようにする、施設に入りやすい雰囲気を作るために、例えば施設の前を通る人に向けた施設名、図書室や幼児・こども室といった機能の紹介（連雀通りに面したガラス窓に施設の名称や、部屋の名称を大きく掲示するなど）や、入口手前の広い中庭を生かした展示やイベントスペースの設置等が有効なのではないかと考える。

また、施設がサードプレイスとしての機能、目的がない人も自由に過ごせる開かれた居場所の役割を果たすことを視野に入れ、一例として、図書館を中心に生涯学習や市民活動、軽食コーナー等の多機能を備えた武蔵野市の施設“武蔵野プレイス”¹⁸⁾を参考にした施設機能の拡充を提案したい。同施設は、多様な人々の自由な居場所としての機能に加えて、人と人をつなぐハブとしての機能も備えている。

4. コミュニティ・センターの利用規約は開館当時からほとんど変わっておらず、基本的には既存のコミュニ

ティが活動を行う前提で作られたものであるため、新たな人と人との交流の場、コミュニティ創生の場としての施設の機能はまだ不十分であると言える¹⁹⁾。三鷹市(2023a)の市民アンケート結果では、地域活動に参加する条件として、「誰もが参加しやすい条件や雰囲気」、「活動に関する情報提供の充実」、「誰もが平等な立場で参加できる条件や雰囲気」等が挙げられており、個人が新たに既存のコミュニティに加入する場合にもこれらが重要になると考えられる。コミュニティ活動に参加・継続していく上で最も大切な要素は、活動に関わる“人”自体の魅力であると筆者は考えるので、参加しやすい雰囲気作りや十分な情報提供を目的として、上記1.~3.に加え、住民協議会の中の“人”に焦点を当てた情報発信の取り組みや、新規利用者に対する接し方、コミュニケーションの取り方や声掛けの工夫を要望したい。後者は、『第6期武蔵野市コミュニティ市民委員会 最終報告【概要版】』の中でも提案が行われている²⁰⁾。

4.2 三鷹市への提案

市内のコミュニティ・センターの管理・運営業務を行っている三鷹市生活環境部コミュニティ創生課には、1.1.2項で挙げたコミュニティに関する4つの課題をふまえて、以下3点の提案を行いたい。

1. 近隣自治体等のコミュニティに関する動向把握、住民協議会や市民との関わり方の再検討
2. コミュニティ・センター機能の市民への周知、市民のニーズ調査とそれに基づいた機能の再考
3. 住民協議会同士のネットワーク構築、コミュニティ評価委員会の常設

1. 近隣自治体に目を向けると、「つくれる つながる むさしのセッション」(武蔵野市)²¹⁾、「公民連携プラットフォーム すぎなみプラス」(杉並区)²²⁾など、「何かやってみたい」という住民がコミュニティを作る、イベントを企画する等の活動を市区町村が積極的に支援する動きが、近年特に活発になってきている。三鷹市では、マチコエ等に代表されるように、多くの市民が街を良くしていくために積極的に活動する風土があるにも関わらず、それが住民協議会の活動に繋がっているとは言い難く、担い手不足の問題が解決していない状況がある。この一因に、市が住民協議会をはじめとするコミュニティ活動や、やる気のある市民を包括的にフォローアップして繋いでいく仕組みが不十分であることが挙げられるのではないかと考えられるため、今後は他自治体も含めた視察や意見交換等を行った上で、住民協議会や市民のコミュニティ活動に対しての市の適切なサポート体制の整備、具体的な仕組みの提案・運用を早期に実現していただきたいと考える。

また、三鷹市と同じく複数のコミュニティ・センターを有する武蔵野市では「武蔵野市職員コミュニティ研究会」が存在し、その報告では、「コミセンあってコミュニティなし」のような状況になっていることには行政にも責任があり、今後行政側には協議会との対等なパートナーシップ、協議会側には地域コーディネーターの役割を求めるという見解が出される²³⁾など、市の責任にも言及しつつ具体的な方向性が示されている。一方で三鷹市(2023b)では、今後の方向性は示されつつ、これまで長年にわたってコミュニティに関する課題が解決していない要因や、今後実際に取り組みを行う主体が誰であるのか等が明記されておらず、第三者の視点と捉えられるような記述も散見される。今後策定の『三鷹市コミュニティ推進計画』には、市(行政)の責任範囲を明記されるとともに、市が主体となってどのように住民協議会と協働していくのか、というできるだけ具体的な方向性・制度等を記述されることを要望したい。

2. 三鷹市(2023b)では、コミュニティ・センターについて、住民協議会の活動場所というイメージが地域に定着しているとあるが²⁴⁾、筆者が非公式に、連雀住区に20年~65年居住する複数人にヒアリングを行った結果、30年以上在住している筆者を含めて、コミュニティ・センターが住民協議会の活動場所であると把握していた市民はいなかった。あくまで私見の域を出ないが、上記はコミュニティ活動に精通している一部の市民の抱くイメージであって、連雀CCで指摘があったように、(たとえ何度も施設の利用経験があっても、正確には)

何の施設であるか分からないという層の方が多いのではないかと推察される。武蔵野市では、市のホームページでコミュニティセンター全館の詳しい利用案内を載せるだけでなく、コミュニティセンターとは何か、どんなことができるか等、利用の心理的障壁を下げられるようなガイドを掲載しており²⁵⁾、三鷹市でも今後の施設利用層の拡大を目的として、(コミュニティ活動に関わっていない大多数の)市民にコミュニティ・センターの存在や機能を“分かりやすく”、“親しみやすく”周知することを徹底し、現場の視察や市民へのアンケートで現在の利用実態や住民ニーズを精緻に把握した上で、実態に沿った具体的な施策提示に移行されるよう、強く要望する。

また、今後のコミュニティ行政施策の1つとして、コミュニティ・センターによらず相談機能を備えることを目指すとあり²⁶⁾、「人が集まる機能」の強化のための施策と考えられるが²⁷⁾、講座、交流会などの記述はありつつその先のビジョンが明確には描かれていない。人を集めるだけでは自然にコミュニティが生まれるとは限らず、人と人との交流を促し、コミュニティ創生のための仕掛けや仕組みづくりをすることの方がより重要になると考えられるので²⁸⁾、『三鷹市コミュニティ推進計画』には、その先にどんなコミュニティ創生への道筋が想定されているのか、誰がどのような手法を用いて他者連携・交流を促進していくのかまで明記されることを期待する。

3.武蔵野市の取り組みを再度参照するが、同市ではコミュニティ研究連絡会という、全コミュニティ協議会が意見交換などを定期的に行う場が設定されている²⁹⁾。また、コミュニティ協議会の施設運営や事業内容を総合的に評価するため、学識経験者、コミュニティ研究連絡会代表者、公募による市民、市の職員から成る「コミュニティ評価委員会」が設置されており³⁰⁾、各協議会による自己点検・自己評価活動が毎年度実施され、協議会の活動が広く市民に知られること、活動の発展や今後のあり方の検討に資することが目指されている³¹⁾。以上のように同市では、①住民協議会同士で定期的な情報共有ができる仕組み、②市(行政)と住民協議会が共にコミュニティ活動を定期的に評価し、協働して課題を解決していく姿勢・制度が、円滑なコミュニティ活動、課題解決に重要な役割を果たしていると考えられる。三鷹市は現状これらに類する仕組みがなく、例えば新川中原CCの音楽サロンのように、住区以外のコミュニティ・センターで参照すべき取り組みが行われていても情報が得られず、施設で行われているイベント等がコミュニティ創生や醸成にどの程度有用であるのかといった検証が(個々の施設でも統一的な基準でも)充分に行われていないため、市民のニーズに即したイベントの工夫や刷新が難しいという状況が続いている。そこで、コミュニティ活動をより円滑に、現在の市民のニーズに沿ったものにしていくことを目指し、早期の住民協議会同士のネットワーク構築、市が統一的な基準で全住民協議会の活動を俯瞰できる評価委員会の常設を提案したい。

5 おわりに

5.1 結論

本研究は、(1)三鷹市内(今回の調査ではコミュニティ・センター)での音楽アウトリーチ実施における障壁の有無と、その具体的な問題を明らかにする、(2)連雀CCにて音楽アウトリーチを実施し、①住民のニーズがあるか、②音楽鑑賞機会や施設の利用機会が多くない層に足を運んでもらうことができるか、③そのような場が住民のQOL向上に寄与しうるか、④長期的にはコミュニティ活動に関する地域課題の解決の一端を担う可能性を有するか、の4点を調査・検証する目的で行った。

(1)に関しては、ほとんどのコミュニティ・センターが音楽イベント実施に際して何らかの課題を有しており、「予算不足」、「人手不足」が障壁となっているケースが多く、施設によっては「奏者探し」、「会場の設備」の問題があることも分かった。また多くの施設は、音楽イベントを含むイベントの実施等によって、「施設を多くの

人に知って欲しい」、「利用率が低い（今利用していない）層にも来場して欲しい」と考えていることが明らかになった。

(2)に関しては、今回の調査により音楽アウトリーチの実施に対する住民のニーズが顕在化し、そのような場が、音楽鑑賞機会の多くない層も含めた住民のQOL向上に寄与するということが分かった。また、施設の利用機会が多くない層もイベントに来場したことから、音楽アウトリーチが施設やコミュニティ活動に興味を持ってもらうきっかけとなりうるということが明らかになった。

連雀CCは、2.1節で述べたように、他のコミュニティ・センターと比較しても催事での利用がしやすい構造となっているが、これまではロビーでのコンサートをはじめとした催事が多いとは言えず、構造の特性が十分に生かしきれていなかった。しかし、今回の調査にて音楽アウトリーチに対する住民のニーズや満足度の高さが顕在化したため、2024年度は実施頻度を上げる予定である。今後は、音楽以外のジャンルも含めて、イベントの趣旨を住民のニーズに即して多様化していく（子ども～ミドル世代、シニア世代などターゲットを絞ったものから、広い世代のコミュニティ創生を目的とした多世代交流型企画まで）ことが、長期的には、施設や住民協議会の抱える課題解決の一助となりうる。

5.2 今後の研究課題

今回は、連雀CCにおける限定的なジャンル・内容の2回の音楽アウトリーチ（コンサート）の実施とその検証のみであったが、音楽アウトリーチを定着させ、コミュニティ活動の活性化などの地域課題の解決に繋げるためには、継続的な取り組みが必要となるため、今後は幅広いジャンル・内容でのイベントの実施・検証をするとともに、住民のニーズの細やかな把握も行っていきたい。また、他のコミュニティ・センターをはじめ、市内にある施設（教育機関、病院、福祉施設、カフェ等）でも、可能であれば同様の趣旨の音楽アウトリーチを展開すると同時に、今回の調査で施設の抱える課題として挙がっていたコンサートの奏者探しに関連して、施設と市内の演奏家を繋ぐ仕組みづくりについても調査・検討したいと考えている。

謝辞

本稿を作成するにあたって、ご多忙の中、コンサートの実施からインタビュー、資料閲覧・確認など多岐にわたり快くご協力いただいた連雀地区住民協議会の古張さん、植田さんをはじめとする事務局、委員の皆様、新川中原住民協議会・葛西さんをはじめ6コミュニティ・センター関係者の皆様、そしてコンサートにご来場、アンケートにご回答下さった市民の方々に深く感謝いたします。また、ご指導いただいた有末先生、仲北浦先生、宇山さん、調査を含め全面的なサポートをいただいた三鷹ネットワーク大学推進機構の皆様、まちづくりラボにて様々な示唆を下さったまちづくり研究員の皆様に厚く御礼申し上げます。

【注】

- 1) NTT コムウェア、2024、「COMZINE BACK NUMBER 明日につながる基礎知識」（2024年3月10日取得、<https://www.nttcom.co.jp/comzine/no131/asuni/index.html>）。
- 2) 一般社団法人日本音楽療法学会、2024、「音楽療法士とは」（2024年3月10日取得、https://www.jmta.jp/music_therapist/）。
- 3) 三鷹市、2023a、『第5次三鷹市基本計画策定に向けた市民満足度調査 報告書』、p.184引用。
- 4) 前掲書、p.174引用。
- 5) 三鷹市、2023b、『三鷹市コミュニティ創生基本方針（仮称）素案』、p.44-45参照。
- 6) 三鷹市、2023、「多世代交流センターについて」、三鷹市ホームページ（2024年3月10日取得、https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/078/078628.html）。

- 7) 各コミュニティ・センターホームページ参照。
- 8) 連雀地区住民協議会事務局へのヒアリングによる。
- 9) 三鷹市（2023b）、p.40-41 参照。
- 10) 前掲書、p.6 参照。
- 11) 連雀地区住民協議会、2024、「住民協議会とは」、連雀コミュニティ・センターホームページ（2024年3月10日取得、<https://www.mitakacc.jp/renjk-cc/about2.html#aramashi>）。
- 12) 連雀地区住民協議会事務局へのヒアリングによる。
- 13) 自宅（ファーストプレイス）や職場・学校（セカンドプレイス）ではない、一個人としてくつろぐことができる第三の居場所。米国の社会学者レイ・オルデンバーグが1989年に提唱した。
- 14) 三鷹市（2023a）、p.176 参照。
- 15) 三鷹市（2023b）、p.51 参照。
- 16) 前掲書、p.58 参照。
- 17) 宇都宮浄人・多田実他、2022、『まちづくりの統計学 政策づくりのためのデータの見方・使い方』、p.188-190 参照。
- 18) 公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団、2024、「武蔵野プレイスの理念」、武蔵野プレイス（2024年3月10日取得、<https://www.musashino.or.jp/place/1001617/1001618.html>）。
- 19) 連雀地区住民協議会事務局へのヒアリングによる。
- 20) 武蔵野市、2010、『第6期武蔵野市コミュニティ市民委員会 最終報告【概要版】』、p.2-3 参照。
- 21) 武蔵野市、2024、「つくれる つながる むさしのセッション Season1 を開催します」、武蔵野市ホームページ（2024年3月10日取得、https://www.city.musashino.lg.jp/heiwa_bunka_sports/community_center/1015323.html）。
- 22) 杉並区、2024、「公民連携プラットフォーム」、杉並区ホームページ（2024年3月10日取得、<https://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/kusei/aratanakyodo/platform/index.html>）。
- 23) 武蔵野市コミュニティ研究連絡会・武蔵野市、2022、『コミュニティ構想50周年記念誌』、p.21 参照。
- 24) 三鷹市（2023b）、p.11 参照。
- 25) 武蔵野市、2024、「コミュニティ・センター」、武蔵野市ホームページ（2024年3月10日取得、https://www.city.musashino.lg.jp/shisetsu_annai/bunka_sports/community_center/index.html）。
- 26) 三鷹市（2023b）、p.56 参照。
- 27) 前掲書、p.51 参照。
- 28) 2024年2月22日にセッション杉並にて行われた、杉並区NPO支援基金チャリティ講座「コミュニティデザイナー山崎亮がやって来る！人とつながる仕組みをつくる～協働するとは～」の講演内容より。
- 29) 武蔵野市コミュニティ研究連絡会、2024、「研連概要」、武蔵野のコミュニティ（2024年3月10日取得、<http://mukenen.sakura.ne.jp/gaiyou.html>）。
- 30) 武蔵野市、2024、「武蔵野市コミュニティ条例（条文）」、武蔵野市ホームページ（2024年3月10日取得、https://www.city.musashino.lg.jp/heiwa_bunka_sports/community_center/1007387.html）。
- 31) 武蔵野市コミュニティ研究連絡会・武蔵野市（2022）、p.5 参照。

[文献]

- 上村有平・小野隆洋、2021、「音楽アウトリーチが子どもに及ぼす効果：感想文の分析から」『山口芸術短期大学研究紀要』53：15-27
- 宇都宮浄人・多田実他、2022、『まちづくりの統計学 政策づくりのためのデータの見方・使い方』学芸出版社
- 梶田美香・中村由加里、2021、「音楽芸術分野のアーティストにとっての公立文化施設によるアウトリーチ活動の意味——




- インタビューの分析による検討——』『名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究』36 : 135-147
- 小井塚ななえ、2016、「演奏家の成長におけるアウトリーチの教育的意義——事例分析と聞き取り調査を通して——」
『東京藝術大学博士論文』
- 砂田和道、2007、「クラシック音楽におけるアウトリーチ活動とそれに関わる音楽家養成の課題」『文化経済学』5 (3) : 87-99
- 高橋千絵・末永雅子、2012、「公民館で行う音楽アウトリーチの可能性——府中南公民館でのアウトリーチ活動の事例から——」『子ども・子育て支援研究センター年報』(2) : 21-33
- 永島茜、2021、「音楽アウトリーチ研究の現在——活動が抱える課題の分析と今後の方策——」『武庫川女子大学 学校教育センター紀要』(6) : 95-108
- 、2023、「行政による文化芸術に関するアウトリーチ事業の在り方——西宮市及び堺市の事例から——」『武庫川女子大学 学校教育センター紀要』(8) : 15-28
- 丹羽梓、2021、「『音楽鑑賞教室』と『アウトリーチ活動』の境界線——理念なき文化活動と政治との関わり——」『常盤台人間文化論叢』7 (1) : 57-81
- 三鷹市、2023a、『第5次三鷹市基本計画策定に向けた市民満足度調査 報告書』
- 、2023b、『三鷹市コミュニティ創生基本方針（仮称）素案』
- 三鷹市市民参加でまちづくり協議会、2023、『政策提案（未来のまちづくりアイデア集）～まちの声を聴き、まちの声をカタチにする～』
- 武蔵野市コミュニティ研究連絡会・武蔵野市、2022、『コミュニティ構想50周年記念誌』
- 湯原悦子・石川貴憲、2022、「社会福祉領域における音楽アウトリーチの効果に関する探索的研究」『日本福祉大学福祉論集』(147) : 59-80
- 吉本光宏、2001、「アートと市民・子どもをつなぐ『アウトリーチ活動』——芸術による社会サービスの可能性——」『ニッセイ基礎研 report』(55) : 2-7

プロフィール

加藤亜希子

三鷹市生まれ。三鷹双葉幼稚園、三鷹第六小学校、三鷹第一中学校卒業。東京大学工学部、桐朋学園大学音楽学部卒業、同研究生修了。クラリネットを大橋一徳、四戸世紀、鈴木良昭の各氏に師事。在学中より、新実徳英氏をはじめとする作曲家の新作初演・再演に多く携わる。現在は、室内楽・オーケストラ演奏、CDレコーディング、楽器指導に加え、自身のライフワークとして、小学校・福祉施設・公共施設等での演奏会や親子・子供向けコンサート等の音楽アウトリーチ活動を精力的に行っており、2022年にはオンラインも含め年間100回以上のアウトリーチ公演を行った。三鷹市出身の二胡奏者・濱島祐貴氏とのユニット“デュオ・しもれん”、現代音楽演奏集団“ケフェウス五重奏団”、音楽アウトリーチを中心に活動する木管五重奏“もくごならべ”等のメンバー。東京都音楽教室クラリネット講師。

クラリネットによる 夏休みコンサート






2023年8月26日(土)
13:30開場/14:00開演(14:45終演予定)
連雀コミュニティセンター 1階ロビー
入場無料・先着30名(乳幼児スペース有)
クラリネット演奏 加藤亜希子

〈曲目〉・ガーシュウィン:ラズソフィー・イン・ブルー
 ・久石譲:とせりのトトロ
 ・茶加瀬水郎:情熱大陸 ほか

子どもから大人まで、幅広い年代の方に
お楽しみいただけるコンサートです♪

お問い合わせ: **0422-45-5100**
 (連雀コミュニティセンター)



演奏者プロフィール

加藤亜希子(クラリネット)

東京都三鷹市出身。三鷹双葉幼稚園、三鷹第六小学校、三鷹第一中学校卒業。15歳より高校吹奏楽部にてクラリネットを始める。これまでにクラリネットを大塚一徹、西戸世紀、鈴木良昭の各氏に、室内楽を菅井正幸、岡本正之、藤羽弘晃、三瀬和朗の各氏に、ピアノを宮永真珠、大野直子、廣川雅代、村上猛一郎の各氏に師事。

東京大学工学部、桐朋学園大学音楽学部クラリネット専攻卒業、同研究修了。在学中、成績優秀者による室内演奏会、オーケストラ公演に多数出演。Nishi Graduate Orchestra・第4回演奏会(菅野聖一郎指揮)にてモーツァルトのクラリネット協奏曲を共演。

現在は、邦人作曲家の新作初演や吹奏楽・オーケストラの演奏、CDや映画サウンドトラックのレコーディング参加、楽器指導に加え、自身のライブアクトとして、幼稚園・小学校・福祉施設での演奏会や親子・子供向けコンサートなどのアウトリーチ活動を精力的に行っており、2022年はオンラインでのコンサートも含め年約100回の公演を行った。

桐朋学園芸術短期大学嘱託演奏員、東京都音楽教室クラリネット講師、令和5年度三鷹まちづくり研究員。



交通アクセス

※駐車場はございませんので車でのご来館はご遠慮下さい

■徒歩: JR三鷹駅南口より 約12分
 ■バス: 「八幡前」または「八幡前・三鷹市芸術文化センター前」下車 徒歩3分

①三鷹駅から
 ■51(ICU/大沢方面)、■52(朝日町三丁目/草園団地方面)、
 ■53(新小金井方面)、■54(新川団地中央/児童学園東/仙川方面)、
 ■60(三鷹駅南口)、■65(深大寺方面)、■56(神代植物公園前/廣布駅北口方面)
 ※各先行からの折り返し便も同系統番号

②武蔵境駅から 街44(新宿西口方面)
 ③吉祥寺駅から 街44(武蔵境方面)



連雀 CC 館内、掲示板等に掲載された8月26日コンサートのチラシ・ポスター

行事名	内容	日時	対象	申込方法	備考
連雀スポーツ祭(吹奏楽)	ファミリーコンサート	8/12(土) 午後1時~4時	一般	吹奏楽、吹奏楽指導者へ	吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定
信子紙	親子で楽しむ紙芝居	8/13(日) 9/10(日) 9/10(日)~15(日)	一般	親子連れ歓迎	紙芝居指導者へ 紙芝居指導者へ 紙芝居指導者へ
連雀サロン	お茶会(無料)	8/15(水) 9/19(日) 9/26(日)~30(日)	一般	吹奏楽部員限定	吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定
ペーパーマージン交流会	紙の文化を学ぶ	8/18(金) 9/8(金) 10/13(金)	親子・児童	親子連れ歓迎	親子連れ歓迎 親子連れ歓迎 親子連れ歓迎
楽器科授業	楽器のしくみや演奏の仕方	8/20(日)	一般	吹奏楽部員限定	吹奏楽部員限定
クラリネットによる夏休みコンサート	クラリネットによる演奏	8/26(土) 午後13:30開場 14:00開演	一般	吹奏楽部員限定	吹奏楽部員限定
納涼のための納涼祭	納涼祭	8/27(日) 9/3(日) 9/10(日) 9/27(日) 9/27(日)	一般	吹奏楽部員限定	吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定
学習講座「早稲餅作り」	早稲餅作り	9/6(水) 9/13(水) 9/20(水) 9/27(水)	一般	吹奏楽部員限定	吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定
ポッチャリ健康教室(吹奏楽)	健康教室	9/9(土)	一般	吹奏楽部員限定	吹奏楽部員限定
エコくらぶ夏祭り	エコくらぶ	9/9(土) 9/30(土)	一般	吹奏楽部員限定	吹奏楽部員限定 吹奏楽部員限定
こども園のイベント	こども園	10/7(土)	一般	吹奏楽部員限定	吹奏楽部員限定

広報みたか No.1744 2023.8.6

広報みたか No.1744 2023.8.6

三鷹市議会(議員)第一回定例会
 三鷹市議会(議員)第二回定例会
 三鷹市議会(議員)第三回定例会
 三鷹市議会(議員)第四回定例会
 三鷹市議会(議員)第五回定例会
 三鷹市議会(議員)第六回定例会
 三鷹市議会(議員)第七回定例会
 三鷹市議会(議員)第八回定例会
 三鷹市議会(議員)第九回定例会
 三鷹市議会(議員)第十回定例会
 三鷹市議会(議員)第十一回定例会
 三鷹市議会(議員)第十二回定例会
 三鷹市議会(議員)第十三回定例会
 三鷹市議会(議員)第十四回定例会
 三鷹市議会(議員)第十五回定例会
 三鷹市議会(議員)第十六回定例会
 三鷹市議会(議員)第十七回定例会
 三鷹市議会(議員)第十八回定例会
 三鷹市議会(議員)第十九回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十一回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十二回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十三回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十四回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十五回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十六回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十七回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十八回定例会
 三鷹市議会(議員)第二十九回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十一回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十二回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十三回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十四回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十五回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十六回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十七回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十八回定例会
 三鷹市議会(議員)第三十九回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十一回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十二回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十三回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十四回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十五回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十六回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十七回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十八回定例会
 三鷹市議会(議員)第四十九回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十一回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十二回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十三回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十四回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十五回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十六回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十七回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十八回定例会
 三鷹市議会(議員)第五十九回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十一回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十二回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十三回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十四回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十五回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十六回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十七回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十八回定例会
 三鷹市議会(議員)第六十九回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十一回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十二回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十三回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十四回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十五回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十六回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十七回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十八回定例会
 三鷹市議会(議員)第七十九回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十一回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十二回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十三回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十四回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十五回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十六回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十七回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十八回定例会
 三鷹市議会(議員)第八十九回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十一回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十二回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十三回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十四回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十五回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十六回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十七回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十八回定例会
 三鷹市議会(議員)第九十九回定例会
 三鷹市議会(議員)第一百回定例会

デュオ・しもれん Duo Shimoren



はまじま りゆうき
二胡 濱島 祐貴

三鷹市下連雀出身、11才より二胡を始め、朝明学園大学および朝明学園編成大学(修十課程)で作曲を学ぶ。二胡演奏・作曲ともに、国内の主要な在籍コンクールに最高位入賞を果たし、その後国内外を舞台に幅広い音楽活動を展開。



かとう あきこ
クラリネット 加藤 亜希子

三鷹市下連雀出身、15才よりクラリネットを始め、大橋、西、四戸世絵、鈴木貞昭の各氏に師事。東京大学、朝明学園大学卒業、同研究修了。現在の活動は施設への訪問演奏、新作編曲、レコーディングなど多岐にわたる。今年度三鷹まちづくり研究員。

**デュオ・しもれんが贈る
二胡とクラリネットで奏でる 秋の調べ**

～演奏予定曲目～
♪ 歌劇「カルメン」第三幕への間奏曲(ビゼー) ♪ ふるさと(岡野貞一)
♪ あの夏へ～ジブリ映画「千と千尋の神隠し」より(久石譲) ほか

2023年11月12日(日) 13:30開場/14:00開演(15:00終演予定)
連雀コミュニティセンター 1階ロビー 入場無料

お問い合わせ: 0422-45-5100 (連雀コミュニティセンター)

連雀 CC 館内、掲示板等に掲載された 11 月 12 日コンサートのチラシ・ポスター

行事名	内容	日時	対象	申込方法	備考
こころの聲を (メンタル不調)を 防ぎ、改善するための 音楽・運動・睡眠 (講師 濱島 祐貴)	こころの健康を維持する ためのポイントやメンタル 不調の原因、予防法など を楽しく学べる。メンタル 不調への理解を深め、こ ころの健康を維持する。	10/7(土) 午9時30分～正午	一般市民 (※予約 50名)	ホームページまたは連雀CCロビー (申込) 電話5100	会 場: ホントー2階大ホール 定 員: 50名(先着順) 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 無料(100円以上の送料) 内容: 心身の健康、メンタル不調の原因と予防法、こころの健康を維持するための音楽・運動・睡眠についての内容 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
包丁おぼ	親子で包丁を使いながら、 毎週調理・洗剤・掃除機 の使い方講座(講師 湯原 信子)	10/8(日) 11/12(日) 午9時～正午	一般市民	費用対してご参加ください。	会 場: ホントー1階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
ペーパーマージョ 交流会 (多世代交流)	高齢者と若年世代と ペーパーマージョで交流し、 コミュニケーション能力を 高め、生活の楽しさを分か ち合おう。交流の機会を もち、生活の楽しさを分か ち合おう。	10/13(金)、 12/8(日) 午9時30分～正午	高齢者 15歳未満の 若年世代	ホームページまたは連雀CCロビー (申込) 電話5100	会 場: ホントー1階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
運雀サロン	10月1日「国産米を 食べる」として、11月1日 「国産米を食べよう」として、 2023年10月15日「国産米を 食べる」として、お茶会 を行います。	10/17(木)、 11/21(水) 午9時30分～3時	一般市民	11月の午会、11月21日の午会、 11月21日の午会、11月21日の午会 11月の午会、11月21日の午会、 11月21日の午会、11月21日の午会	会 場: ホントー1階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
第21回地産食 品展覧会 (講師 湯原 信子)	地産地消の推進を 目指して、地産地消 商品の展示販売を 行います。	10/18(日) 午9時～16時	一般市民 中心、児童、幼児も参加可	申込、当日受付可	会 場: ホントー1階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
オールフェイ リズムのための リズムワークショップ (講師 湯原 信子)	リズムワークショップ を通じて、リズムを 楽しむことができる ようになります。	11/1(水)、 11/15(木) 午9時30分～ 12時	一般市民 (※6歳以上の 児童、幼児も 参加可)	10/27(日)午9時30分～12時 ホームページまたは連雀CCロビー (申込) 電話5100	会 場: ホントー2階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
二胡とクラリネット で奏でる秋の調べ (CD販売)	二胡とクラリネット で奏でる秋の調べ のCDを販売します。	11/12(日) 午9時～16時	一般市民 (※予約 50名)	当日受付可	会 場: ホントー2階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
健康食品の効能/ 効果について (講師 湯原 信子)	健康食品の効能/ 効果について を学ぶことができます。	11/8(水) 午9時～12時	一般市民	申込、当日受付可	会 場: ホントー2階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
漢ミソワークショップ (講師 湯原 信子)	漢ミソワークショップ を通じて、漢ミソの 魅力を学びます。	11/11(土) 午9時～12時	一般市民	申込、当日受付可	会 場: ホントー2階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
防災のための 防災ワークショップ (講師 湯原 信子)	防災のための 防災ワークショップ を通じて、防災の 意識を高めます。	11/11(土)、 11/18(日)、 11/25(日)、 12/2(日) 午9時～12時	一般市民	10/27(日)午9時30分～12時 ホームページまたは連雀CCロビー (申込) 電話5100	会 場: ホントー2階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)
みたくきづくり ワークショップ (講師 湯原 信子)	みたくきづくり ワークショップ を通じて、みたくき の魅力を学びます。	11/15(水)、 11/22(水)、 11/29(水) 午9時30分～正午	一般市民	11/15 申込、当日受付可 11/22 申込、当日受付可 11/29 申込、当日受付可	会 場: ホントー2階大ホール 定 員: 50名 前 席: 朝明学園大学連雀キャンパス 費用: 100円(送料50円) 申込: 0422-45-5100 (受付時間: 10月6日～7日)

広報みたか No.1749 2023.10.15

催し

10月15日(日) 14:00開演(15:00終演予定)
連雀コミュニティセンター 1階ロビー

デュオ・しもれんが贈る
二胡とクラリネットで奏でる 秋の調べ

演奏予定曲目:
歌劇「カルメン」第三幕への間奏曲(ビゼー)
ふるさと(岡野貞一)
あの夏へ～ジブリ映画「千と千尋の神隠し」より(久石譲)

入場無料

お知らせ

11月12日(日) 13:30開場/14:00開演(15:00終演予定)
連雀コミュニティセンター 1階ロビー

デュオ・しもれんが贈る
二胡とクラリネットで奏でる 秋の調べ

演奏予定曲目:
歌劇「カルメン」第三幕への間奏曲(ビゼー)
ふるさと(岡野貞一)
あの夏へ～ジブリ映画「千と千尋の神隠し」より(久石譲)

入場無料

組合改正のお知らせ

三鷹ネットワーク大学の組合員規約を改正し、11月15日より施行いたします。

改正の主な内容:
・組合員の定義
・組合費の徴収
・組合員の権利と義務
・組合の解散と清算

お問い合わせ: 0422-45-5100

スポーツ

11月のスポーツ行事:
・11月15日(水) 10:30開演 三鷹市立総合文化センター
・11月18日(土) 10:30開演 三鷹市立総合文化センター
・11月25日(日) 10:30開演 三鷹市立総合文化センター

連雀住協・コミセン広報紙「けやき」
2023年9月29日発行 第250号より

広報みたか 2023年10月15日発行 第1749号より